叙勲の栄に浴して

徳永　陸繁（とくなが・くがしげ）

此の度、菊薫る好季節の11月3日、文化の日に、私事ながら秋の叙勲で勲五等双光旭日章の栄に浴しました。

この賜りました栄誉は、偏に財団法人日本ハンドボール協会を推薦団体とするものであり、ハンドボール創設期より共に歩んだ関連諸兄、諸氏のお力添えと心から感謝申し上げる次第であります。また、人生の多くをハンドボールと共に生きてきました私にとって大変感慨深い出来事でありました。

11月15日の国立大劇場における叙勲伝達式には、幸いにも配偶者同伴にて参列することができ、その後、皇居内豊明殿において天皇陛下の拝謁を賜り、親しくお言葉をいただきました。この厳粛な時間、栄誉を深くかみしめながら、昭和17年に大日本体育会（現日本ハンドボール協会）の理事に就任した頃を始めとして、今日に至る迄の様々な事が走馬燈の様に思い出されました。

まず、当協会の初代会長の平沼亮三先生を始め、永井松三郎会長、式場隆三郎会長、鈴木達雄会長、田村正衛会長、そして斎藤英四郎現会長と、各界、各分野における錚々たるリーダーと六代に渡り接し、共にハンドボール界の普及、発展のために努力出来たことは、大変恵まれたことであったと思います。

各会長から人生の先輩として教えられたこと、またその人柄から学び、経験した数々の示唆深い事柄は枚挙に遑がなく、忘れられない思い出となっています。



次に、長くを高等学校教諭として過ごしてきた自分にとって、昭和24年の全国高校体育連盟ハンドボール部の創設及びそれ以降の育成に携わったことも忘れることが出来ません。当時は、戦後間もなき頃で、競技用具は粗雑で、校庭や競技場も十分でなく、大変苦労致しました。部を支える人々の協力と、技術の向上を強く願ったことが報われ、翌年、大阪藤井寺競技場に高松宮殿下のご台臨を仰ぎ、第1回全日本高体連ハンドボール大会開催にこぎつけられたことも、大変感慨深いことでした。第1回大会時の加盟高校数が350校であったのに対して、平成4年度においては、2500余校の加盟校と約5万人の選手を抱える迄になったことは、喜ばしい限りであります。

更に、選手の育成、技術力の向上ばかりでなく、審判の技術の向上の必要性を痛感したのもこの頃でした。

審判員は単にゲームのレフェリーとしての存在だけでなく、観戦者に対し感動と興味を与える役割もあるべきだという持論のもとに研究、指導をしてきたつもりでありましたが、今日、バルセロナ・オリンピックにおいて日本人審判員が登用されたのを知り、重ねて感激したものであります。

また近年、社会人及び実業団、企業スポーツの重要性が話題となる中、昭和51年、日本ハンドボールリーグが開幕致しました。その初代委員長の任命を受け、第一歩を踏み出す重要な時期に協力出来たことは、非常に名誉なことでありました。今日、第18回の開催に入り、全国各地で熱戦が展開されているのを聞き、リーグの次世代への飛躍を更に期待するところです。

兎にも角にも今回の叙勲に浴することが出来ましたのは、これ迄自分なりにスポーツの道を求めて来た一つの結果が幸運にも評価されたものであると思いますが、前述致しましたように、その過程では多くの方々の献身的な協力と、チームワークと、お力添えがあったからこそ現実のものとなった次第です。

今の心の感動を大切にし、皆様への感謝の念を忘れず、更にこの栄誉に恥じないようこれからの人生に一層精進する所存でございます。現在は日本ハンドボール協会顧問という立場でありますが、引き続き日本ハンドボール界が益々発展することを祈念すると共に、微力ではありますが尽力させていただくつもりでございます。

CONTENTS

叙勲の栄に浴して……徳永陸繁…1
日本協会だより……2
日本リーグ・オーナー会議……4
◆97ＷＣニュース……6
第18回日本リーグ総括……10
プレーオフを制して……西山　清…13
第18回日本リーグ優勝報告……西窪勝広…14
第45回全日本総合選手権大会……15
全日本学生選手権大会……17
◆東四国国体優勝チーム手記特集
三重を下して４連覇〈成年男子一部〉広島県選抜……19
チーム一丸の待望の勝利〈成年男子二部〉香川県……19
心暖まる民泊での出会い〈成年女子〉熊本県……20
感動いまだ覚めやらず〈少年男子〉福岡県選抜……20
暖かい応援団に奮い立つ〈少年女子〉愛知県選抜……21
第７回男子アジア選手大会報告……22
連載／ハンドボールの指導法……大西武三…23
特性からみた体力づくりの方向……田中　守…27
各地の大会結果……28

写真提供：㈱スポーツイベント

日本協会だより



11月度　常務理事会

日　時　11月20日9時40分より12時

場　所　東興ホテル会議室

出席者　中澤専務理事ほか8名

1．登録規定、競技用具検定規定の改定について

担当の江成氏より登録規定改定（案）について説明。

詳細については別途に検討委員会を設けて検討、12月中に成案を得る事とした。

競技用具検定規定についても同様の手順で早急に進めることとした。

登録問題については、清水理事を委員長とし、ブロック、学連、実連、評議員それぞれの代表及び担当者で委員会を構成し、これに当たることとした。

競技用具については、大塚審判委員長を長とし、指導、ブロック、評議員それぞれの代表及び担当者で委員会を構成することとした。

2．国体リハーサルについて

第50回（福島）大会リハーサルは教職員とクラブの大会を併設して行う。第51回（広島）より社会人大会の方向に切り替えて行きたい。

3．第2、3回ジュニアオリンピック大会について

第2回は前回同様に開催、第3回以降は各種大会が目白押しの3月を避け、更に3年生も出場可能な12月に変更することを検討中。

4．アジア競技大会について

ハンドボール競技運営組織説明。人事については専務理事に一任することとした。

5．95年男子世界選手権東アジア予選

AHF金副会長よりの日本開催の要請について検討。

日本としてはアトランタオリンピックの予選（95年にアジア選手権と並催）開催を希望するが、97年熊本に世界選手権大会の招致をアッピールするためには、このブロック大会をまず引き受けることとし、オリンピック予選誘致は今後の情勢を見ながら判断することとした。

ブロック大会は費用を地元負担（一部日本協会補助）で開催地を募ることとした。

6．全日本総合選手権大会について

平成6年度大会は東京都体育館で開催。但し体育館割り当てでは最終日が月曜日となり、観客動員等に問題があるため、第1日を繰り上げて他会場で実施し、決勝戦は日曜日とすることに決定。

7．東アジアスポーツ大会について

JOCより東アジア競技大会の種目にハンドボールが追加決定したことに伴い、参加の意志確認あり、参加することに決定（昨年中国で開催され、今後も継続する予定であった極東ハンドボール大会はこの大会に併合のため廃止）。

8．高校選抜大会について

次年度よりの開催地、参加チーム数の変更について検討した結果、参加チームは32とし、平成6年は山口県で開催、以降当分の間、従来通り名古屋市で開催することに決定。

9．国体の屋外ハンドボールコートについて

日体協に対し、国体の施設設置基準の見直しについて申し入れている。見直しについては体育館優先とするが、屋外に設置する場合、オールウェザータイプにするよう申し入れすることに決定。

10．95年男子世界選手権東アジア予選について

常務理事会の決定を承認。開催地は東京、大阪、愛知などに呼び

平成5年度　第2回理事会

日　時　11月20日13時～17時

場　所　東興ホテル会議室

出席者　中澤専務理事、大野監事ほか17名

1．オーナー会議報告（詳細別掲）

2．徳永元副会長の叙勲報告

3．松原理事（四国ブロック）より東四国国体終了謝辞

4．97年世界選手権大会招致活動について

11月4～6日、クウェートで開催されたIHF理事会において立候補挨拶及び熊本についてのプレゼンテーション実施（熊本市2名・井氏）。12月、ノルウェーで開催される女子世界選手権大会に代表団を派遣、今年最後の招致活動を展開の予定。

5．平成5年事業経過報告

（内容はその都度掲載済みにつき省略）

掛け、2週間を目途とし、開催希望がない場合は熊本にお願いすることとした。

11．採用内定者の登録について

登録規定見直しの中で検討するが、今年度については高校生については企業と学校長と、大学生については大学ハンドボール部長と企業が話し合い処理することとした。

12．バーレーン日本人学校に対しゴールポスト寄贈について

先のアジア選手権大会での応援に対する謝礼としてハンドボールゴールポスト一式を寄贈することに決定。

12月度　拡大常務理事会

日　時　12月11日10時30分～16時50分
場　所　東京体育館研修室
出席者　中澤専務理事、松本監事、常務理事9名、市原、福地、佐分理事、西山スポーツ医科学委員長、津川男子強化専門委員長、蒲生全日本男子監督

強化に関して意見交換をするため常務理事会メンバーに上記の方々を加えて開会。

1．男子強化について

強化の目標はアトランタに向けてであり、スタッフの任期もそれに合わせる。招致活動中の世界選手権大会の開催はハンドボールの活性化のためにも勝つことが求められていることを踏まえて討論する。

蒲生監督より、①基本方針、②強化進捗状況、③今後の計画、④強化の問題点と要望等について発表。

アジア大会優勝、オリンピック出場に向けて努力する。一層の支援をとの要請がなされた。

更に、ナショナルチームにスポンサーをつけることに関し提案あり、西山委員長より男女ナショナルチームの現状と対策について報告。トレーナーバンクの設置について提案あり。

その他、外人スタッフ問題、日程調整、選手所属チームの理解と支援等について意見を交換した。

来る3月10日～12日に全日本男子、学生選抜、全日本B・ジュニア選抜、日本リーグ選抜の4チームで強化ゲームを開催することに決定。次回は女子強化の問題点について討議。

2．登録規定について

一部の用語を訂正、他は原案通り承認。2月の全国理事会に諮ることとした。なお、将来的には監督、役員、審判等も含めた個人登録以降の可否について検討していく。

3．女子世界選手権大会視察報告
（詳細別掲）

4．AHFからの各種アジア選手権大会開催の問い合わせについて

95年アジア選手権大会兼アトランタ・オリンピック予選はクウェートが有力。2回続けての日本開催には反発が予想される。その他の大会と合わせて他国の動きを見て態度を決めることとした。

5．第14回男子世界選手権大会極東予選について

熊本世界選手権大会招致に向けて全国各地で機運を盛り上げるためにも熊本以外での開催を再度検討。12月18日までに決定。

6．平成6年度事業計画、予算作成について

次回、1月常務理事会で検討するため1月10日までに提出することとした。

7．財務の見通しについて

平成6年度のJOC、スポーツ振興基金等からの委託金、補助金の削減が予想される。一方では加盟団体から財政援助の要望が相次いでいる。日本協会の現状を理解のうえ、受益者負担の形を一層推進して頂くよう要請。

8．クラブ委員、国体委員の増員について

クラブ委員として佐分高体連部長、国体委員として大阪・東理事長、神奈川・森川理事長に委嘱することに決定。

9．全日本総合選手権大会TV放映について

平成6年度は10月にアジア大会が開催されるため、国内各種競技大会が12月に集中し、TV放映の枠どりが難しくなるため、大会の開催日を2月にずらせないかとHNKより申し入れあり。7年度以降も含めて検討。

10．IHF・Aレフェリーテストについて

平成6年2月、日本において実施することが決定。詳細は検討中。

11．平成5年度読売スポーツ賞候補推薦について

日新製鋼・西山清氏を推薦することに決定。

以上

2月度　行事予定

●大会
2/11～13　第25回全日本実業団男子トーナメント大会　相模原市
2/12～13　第2回全日本実業団女子トーナメント大会　相模原市

●ナショナル活動
2/　男子ジュニア韓国強化遠征

●会議
2/12　平成5年度第3回全国理事会　岸記念体育館会議室
2/26　平成5年度第2回評議員会　岸記念体育館会議室

◆日本リーグ・オーナー会議報告◆

世界選手権招致に活発な討論



日本リーグのオーナー会議が下記により開催されました。久し振りの会合であり、97年世界選手権大会招致等について活発な討論がなされました。なお、今後はこの会議を年2回（4・10月）定期的に開催することに決定しました。

［日時］平成5年11月16日（火）
14時～15時40分

［場所］経団連会館902号室

［出席者］

（日本リーグ）大崎電気、湧永製薬、日新製鋼、本田技研、大同特殊鋼、オムロン、北国銀行、中村荷役、トヨタ自動車、大阪ガス、北陸電力、大和銀行、日立栃木、トヨタ車体、三景、竹芝精巧、ＪＵＫＩ、ソニー国分、以上18チームのオーナー若しくは代理

（日本協会）斎藤会長、渡邊副会長、中澤専務理事、松本監事、大野監事、他7名

［司会］市原実連理事長

■議事要旨

1 斎藤会長挨拶

オーナーの方々に前もってご相談すべきであったが、世界選手権を熊本に招致することが先の理事会で決定した。先般、熊本県知事、熊本市長も一緒になって会議を持ち、熊本側の実施の意向を踏まえて招致に動き出すことを決定した。しかし、実際には今後、オーナーの方々の力強い支援がなければ招致は不可能であるし、ハンドボールそのものに対する国民的関心が他競技に比べ、まだまだ低いという現状を踏まえ、本日はどの様にしたら大会を日本で成功させることが出来るかについて、忌憚のないご意見を頂きたいと思い、オーナー会議を開催した。

2 日本リーグの現状と今後

（殿水常務理事）

日本リーグは当初男女各8チームでスタートしたが、現在は男子一、二部それぞれ8チーム、女子は一、二部合わせて12チームである。試合方式もホームアンドアウェー方式に移行しつつあるが、会場の確保等にも問題が残っている。

観客動員も当初は年間4～5万人であったが、昨年度は7万人にまで増加した。

今年度から従来の運営委員会の上に日本リーグ委員会を設け、大所高所から幅広いご意見を聞き、よりよい運営を目指している。

3 日本代表チームの活動状況

（井常務理事）

先ごろ、バーレーンで開催された男子アジア選手権で日本は3

位、中国で開催の女子は4位であった。女子ジュニア世界選手権では順位こそ12位であったが、ドイツ、中国に勝ち、明るい兆しが見えてきた。

10月（今年）に広島で開催されるアジア大会では、男子は金、女子は銀を目標にしている。それまではナショナルチーム優先で強化を計っていくのでご協力をお願いする。

4　日本協会の財務について

（山下常務理事）

日本協会総予算のうち選手強化費は60％を占めている。しかしその内の選手個人の負担金は暫時軽減の方向に進めつつあるが、約27％を負担願っている。

日本リーグ加盟各チームには加盟金、賛助金等の名目で協会運営費用の負担をお願いしているが、賛助金の主旨が徹底していない。不公平感をなくすため次年度からは登録金として一元化することになっている。

今年度の登録チーム数は4702となっているが、他の競技に比べて非常に少ない。1万チームを目指して努力していきたい。

5　97年世界選手権大会協力依頼

評議員会での招致決定を受けて、委員会を発足させ活動を開始。AHF、IHFの会議、イベント等に代表団を送り招致活動を展開している。今後、開催地決定の9月のIHF総会まで、いろいろな形での招致活動を行っていく予定である。開催が決定した折には、広告、入場券などのご協力をお願いしたい。また、選手強化の面でも一層のご協力をお願いしたい。



6　会長の所信表明と要望

世界選手権はどの国も招致したいと思っている。成功させるかどうかは、その国のスポーツの消長に影響がある。これだけのイベントは並大抵のものではない。物心両面のあらゆるご協力を、このオーナー会議を中心に広くお願いしなければ成功は難しいと思う。特に、ナショナルチームが弱くては困る。多くの人が熊本に行き、選手権大会を見守るような国としてナショナルイベントとして考えるようレベルを引き上げなければならない。開催するからには成功させなければならない。そのためには日本チームが予選で落ちるようでは困る。強くなれば皆が関心を生む。ハンドボールは学校の授業にも取り入れられ、国民に馴染んでいるスポーツだと思う。世界選手権大会を機会に大きく花を咲かせたい。皆が一体となって世界選手権大会を成功させるよう、国民運動をお願いしたい。そうしなければ成功はおぼつかない。

ハンドボールの現状は決して満足出来るものではない。これを契機として国民的スポーツにしたい。そのためには、物心のよほどの協力がなければ簡単にはいかないと思う。

オーナーの方々に中心となって頂き、推進委員会、選手強化関係の委員会、広報マーケッティングの委員会の3つを作って頂きたい。これを会長提案とし、ご承認頂きたい。

7　質疑応答（抜粋）

Q　開催について会長と熊本県知事の合意は出来ているか。

A　招致委員会発足に知事も同席され、招致の意志を表明している。

Q　開催が決定した時の最高実行者は誰か。

A　人事の問題は委員会が出来た時に考えるが、最高実行者は会長ということになると思う。各委員長には副会長になって頂く予定。推進委員長にはAHFの理事であり、世界にもつながりを持っている渡邊副会長になって頂くつもりでいる。

Q　オーナーはかなりの覚悟でかからなければならないと考えているが、自治体の援助が入らない等の突発的事態の場合、どれくらいの負担を考えておけばよいか。

A　委員会ではこの様なことも含めて検討していく。委員にはオーナーの方々になって頂き、大事業であることを覚悟して頂きたいということである。県、市の予算はまだ決まっていないが、これに関連して国体用に建設を予定しているドームを97年に間に合うようにする旨発表されている。

Q　観客動員について、どの様に考えているか。

A　国内での世界的規模の大会を待望している方達は多い。ナショナルチームの活躍が約束されれば集まると思う。マスコミの協力的報道なくしては観客動員はおぼつかない。広報マーケッティング委員会で考えていく。

以上

97WCニュース

1997年男子ハンドボール世界選手権大会

日本招致・熊本開催を成功させる大集会

熊本県ハンドボール協会会長　與縄義昭

標題の集会が11月14日（日）、熊本市内のホテルにおいて開かれ、関係者400名余りが集まりました。

97WC招致活動の始まる発端については協会機関誌の9月号に詳しく掲載されていますが、本当に雑談の中から生れたものでした。それがこのように熊本県・熊本市までも巻き込んだ動きとなるまでには、数多くの関係者の皆様の緻密な計画推進、連携があったからこそだと思います（勿論、海外の方々も含めてです）。

そのような中で、熊本県内のハンドボール関係者のこのWCに関する認識、反応はどの程度であろうか、ということが話題となりました。熊本の地方新聞に初めて記事として掲載されたのが、日本協会評議員会が開催された6月26日で、熊本県協会が97年開催へ立候補を表明するとの内容でした。翌27日に、その評議員会で日本招致・熊本開催が決定された旨の記事が載りました。熊本県のハンドボール界として何か動きがあるということは分かるにしても、経過は分かっておられないのでは、またもっと知りたいなという方々が大勢おられるであろうことが想像出来ましたので、そのような内容も含め、支援の決起大会を開催しようとの動きとなった訳です。

熊本県協会は1947年に設立されて以来、46年間に小・中・高・一般の各部門において日本一になった累計が93年末現在82回を数えております。また、11人制ルールが無くなったのは63年ですが、熊本県ではオールドが集い、楽しむ手段として正月には11人制で遊ぶ会を始めてから20年間、この集まりを高校OB界を主体として開催してきております。このようなことを背景にすると、関知していないことに対する不満というか、そのようなことが感じられました。

そこで、タイミング的には斎藤日本協会会長を長とする「招致委員会」が発足する9月21日以降、オスロの女子世界選手権大会視察出発の前に大集会を開催しようということに決定しました。

当日は「世界へはばたけ」と銘打ち、実現すれば熊本県として初めて世界選手権大会種目としての決起大会ということで、関係者の熱気は大変なものでした。

熊本県体育協会の八木会長の祝辞に続き、日本協会常務理事、県協会理事、オムロン総監督の井氏によるこの集会に至るまでの詳細の説明、この中には熊本県、市のご協力により作成した海外用プロモーションビデオも上映（5分間ではあったが、テンポも早く、簡潔に日本、熊本を表わしている、という高い評価を頂きました）。

また、応援に駆けつけた男子ナショナルチーム監督の蒲生氏、及び熊本県出身で現在ナショナルチームで活躍中の魚住、岩本両選手等からも激励の言葉が述べられました。

この集会は関係者だけの、ある意味においてはごく内輪の会合であるとの立場から、知事、市長にはご案内を致しませんでした。ということで、お付き合い出席という方はおられず、皆が主役といった感じの懇親会になり、予定時間も大幅にオーバーする熱気に包まれた数時間になりました。

招致活動の一環としてのオスロ大会視察及び国際会長との会談は、熊本開催について大変よい感触を得ることができたようですし、今後の世界の理事会、総会で正式決定を心から待ち望んでおります。

決定しましたら、「大会成功を実現させよう」との標題で第2回決起大会を催したいと今から考えております。

全国の皆様のご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

女子世界選手権大会での招致活動

日本協会常務理事　井　薫

平成5年6月、全国評議員会で97年の男子世界選手権大会の招致を決定後、9月のバーレーンのＡＨＦ理事会、11月のクウェートのＩＨＦ理事会と段階的に行ってきた招致活動の93年最後の舞台は第11回女子世界選手権大会の会場でした。日本協会から渡邊副会長、竹野国際、木野企画広報、熊本からは木村県出納長、中村市収入役に與縄県協会会長、招致委員としての井、そして県市の視察員と、協会と開催地が初めてチームをつくってのノルウェー訪問のため、12月2日午後8時、積雪のオスロ空港に到着しました。

今回は、これまでのプレゼンテーション（広報活動）から一歩踏み込んだ日本開催に向けての正式意志表示と、それに伴う交渉、また開催決定後の準備に関する大会運営の視察が主目的で、3日のＩＨＦメンバーとの昼食会（11月の時点で約束済み）は、その意味に於いて大変重要な部分として位置づけていました。

ＩＨＦの出席者は、会長のアーウィン・ランク夫妻、専務理事のレイモンド・ハーン、財務局長のルーディ・グロック、会計担当のビルゲ・フェルトの各氏。会の前に渡邊氏が「この顔ぶれはすごい。テーマも開催権等、財政面がメインになるだろう」との予測に、日本側出席者（上記）も緊張。まずランク会長（元オーストリア外務大臣）の「日本の意志は充分伝わっている。今回、開催地から経理、財政に関する人に出席いただいたのは、とてもよいこと（ヨーロッパの諺にもある）」とユーモアを交えてのご挨拶。それから約2時間半、ビッグイベント開催に向けて不可欠のエージェント（広告代理店）、メディア（テレビ中継、放送設備）、その他について双方の意見が熱っぽく論じられ、最後に再び会長が「ＩＨＦとしては基本的に日本開催に問題はなく、今後さらに条件等の調整を行い、明年（今年）9月（オランダ）の総会になるが、日本の招致成功に努力したい」との言葉で締め括られました。

この間、レストランの窓外は、内部の熱気とは対照的に大きなボタン雪が降り、昼の短い北欧の冬は終日街灯がともり、午後3時、早くも夕暮れの気配でした。

翌4日、ハーン、フェルト両氏と日本協会側で前日の議題の細部の打ち合わせ。日本としてのプロポーザル（提案書）等、資料をとりまとめ提出することで合意。これらの交渉から、やはり昨今のイベントを通してのスポーツビジネスの流れは、ハンドボールに於いても例外でなく、むしろそのハードルをクリアすることがポピュラー化を目指す日本協会及び周辺の体質強化につながるとの印象を強く受けました。

さて、正式な話し合いとは別に、渡邊氏の提案で「ジャパン・ドリンク・コーナー」を開設しようということになり、3日、4日の両日、22時から24時（大会は夕方から夜にかけて行われ、夕食が終るのが21時頃）、プラザホテルの最上階の一室を借りて、アルコール類と簡単なスナックを揃え、さらに熊本紹介のパンフや絵ハガキ、郷土玩具やバッヂを準備してオープンしますと、これが大盛況。まず初日は、ランク会長夫妻ほか、ＩＨＦの理事の殆どが顔を見せ、2日目は各国のトレーナーやプレス、地元の大会関係者等が大勢押しかけて、ハンドボール談議や日本、熊本への質問が飛び交う。日本側の若手中心のホスト役も馴れぬ手つきとはいえ、サービスに努め、大活躍でしたが、深夜1時を過ぎても数人の客が残ったりで、後始末は2時近く。全員バテバテになりましたが、多くの国の人との接触で、期せずして国際交流が盛り上がり、有意義でした。



またこの夜、チェコの記者から、親交のあった元ソ連のナショナルチームの名物監督のイゴール・トルーチン氏の訃報を知り、驚きました。冥福を祈りたいものです。

ファイナルの5日、プレスルームで日本の大会招致への協力依頼と、熊本紹介のビデオ（97 Kumamoto Japan)を放映しますと、記者の間から拍手もあり、限られた時間、場所という条件の中での今回の招致活動は、携わった方々のご協力と各々の工夫で満足いく形で進みましたことを喜びたいと思います。

さて女子の世界選手権大会。かつて日本チームで4回参加した世界の桧舞台ですが、ドイツが優勝、2位デンマーク、3位ノルウェーからも解ります様に、ルーマニア（4位）、ロシア、ハンガリー、チェコの旧東欧勢が力を落した反面、北欧勢が上昇。その分、全体的レベルはやや低下した様に見受けられました。また、韓国、中国のアジアの代表に元気がないのも気になることで、各国が過渡期に入っているせいでもあると思いますが、日本にも充分、これらに対抗するチャンスはあると感じました。ただ各国の長身アタッカーが活躍、そこからポスト、サイドへの展開はやはりハンドボールの攻撃の原点でしょうし、アタッカーの育成こそ上昇のキメ手と思います。

大会はカラフルになり、様々な趣向が折り込まれ、女子特有の華やかで楽しい雰囲気があり、観客との一体感があり、参考にしたいものです。今回、かつて男子ナショナルで活躍した東海大の手岡氏（デンマーク在住）にも通訳として滞在期間中お世話になりました。

熊本開催に向けた 招致活動及び大会運営状況調査に参加して

熊本県教育庁体育保健課　奥園栄純

去る12月2日から5日まで、ノルウェーのオスロを中心に開催された第11回女子ハンドボール世界選手権大会において、97第15回男子ハンドボール世界選手権大会日本招致熊本開催の実現に向けた招致活動及び大会運営に関する状況調査を行いました。

まず、特筆すべきこととして、今回の活動が日本ハンドボール協会（渡邉佳英副会長、他2名）、熊本県ハンドボール協会（與縄義昭会長、他1名）、熊本県（木村剛勝出納長、他1名）、熊本市（中村順行収入役、他4名）と、97世界選手権大会実現に向けて中心とならなければならない関係各団体が一致団結して一つの団として展開できたことを挙げることができると思います。

団は二つの役割から組織、ハンドボール協会関係者6名と木村熊本県出納長及び中村熊本市収入役を招致団、その他の熊本県及び熊本市の職員7名を大会開催に向けた調査団として活動しました。

大会開催が決定してもいないのに、大会調査というのは少々気が早い気もしますが、熊本としても、世界大会招致で盛り上がってはいるものの、熊本に招致しようとする大会がどのような大会なのか、見たことがある職員もいませんし、また、最終決定が来年（今年）の9月ということを考えると、それからでは参考にする大会も少なく、大会準備に不安も多いため、今回は招致と大会運営調査という役割を分担し、効果的な活動をしようとオスロに向かいました。

12月2日、オスロのホテルに到着するなり、国際ハンドボール連盟（IHF）の役員の出迎えを受け、9月21日の日本招致委員会の発足からわずか2カ月半余りではありますが、アジアハンドボール連盟（AHF）の理事会及び11月のIHFの理事会において、ハンドボール協会の方々を中心とした的確な日本招致に対する意志表明及びプレゼンテーションが効果的に行われていることがわかりました。

今回の招致活動のメインは12月3日のIHF役員との昼食会及び夜のカクテルパーティーでしたが、IHFの役員にも97世界選手権大会Kumamoto Japanということが十分アピールされており、非常に友好的な雰囲気の中、日本開催に向け前向きの感触を得ることができました。

また、ハンドボール協会の方々が、これまで役員、監督、選手として世界の桧舞台で活躍され、幅広い交友関係を作っておられることが、今回の招致活動の基盤になっていることが感じられました。

次に大会調査ですが、ここでは細かい大会運営に関する調査事項の報告は省略させていただき、ハンドボール世界選手権大会の雰囲気について報告します。

前記のとおり、我々は12月2日の夜にオスロ入りし、3日の試合から大会を観戦しました。大会は11月24日から開催されており、3日には決勝戦進出をかけた試合と順位決定戦が行われ、幸いにも今大会でもっとも盛り上がった地元ノルウェーと隣国デンマークの決勝進出をかけた大会を第1戦目に観戦することができました。

初めて世界選手権大会を観戦し、「これがハンドボールか！」「こんなすごい大会を4年後には熊本で開催できるのか？」我々が受けた衝撃、感動は、言葉では言い表わしようのないものでした。



まるであの映画の「ロッキー」で見たボクシングの試合のシーンの興奮が、そっくりそのままオスロのハンドボールの会場にあり、その中に自分がいるという何とも不思議な感覚になりました。

他にも、ノルウェーとルーマニアの3位決定戦、ドイツとデンマークの延長戦にもつれ込み1点を争う好ゲームとなった決勝戦、また、最後を飾る閉会式のセレモニーと、私がこれまで見た国内のどの大会にもないすごい雰囲気の中で、ハンドボールの魅力、世界選手権大会のすばらしさを満喫することができました。

我々がこのような衝撃、感動を受けたのは何故かと考えてみると、第一に開催国であるノルウェーの人々がハンドボールに日頃から馴染んでおり、参加している選手、ハンドボールという競技そのものに対し深い憧憬の念を持っていること、また、決勝進出をかけた試合や3位決定戦に地元チームが参加したということが本大会の盛り上がりの大きな要因になっていたように感じました。

以上、少々漠然とした内容になってしまいましたが97年の世界選手権大会の日本・熊本開催実現への確かな手応えと世界選手権大会のすばらしさを十分感じ取り、オスロから帰国できたことを今回の報告とさせていただきます。

女子ハンドボール世界選手権大会観戦見聞録

北欧・オスロを訪ねて

熊本市教育委員会社会体育振興係長　近藤修二



まず、読者の皆さんへ一言。

この記録は、97年男子ハンドボール世界選手権大会日本招致活動のため渡邊佳英日本ハンドボール協会副会長を先頭に熊本県、市職員総勢15名にて北欧ノルウェー・オスロ市を訪ねたときのものであります。

12月2日12時30分、期待を乗せてＳＡＳ機はジェット機の轟音残し、成田を飛び立った。

外気温摂氏マイナス50度、眼下には豪雪に被われた白銀の世界が広がっていた。ツンドラの大地、旧ソ連領土シベリア大陸の出現であった。この荒涼とした凍りつかんばかりの景色の中を、ジェット機は延々5時間余り飛び続けた。初めて見る景色と旧ソ連領土の広さには驚くばかりであった。

8時間の時差はあるものの、現地時間12月2日20時20分、日本を離れ16時間後。北欧の地に私は立っていた。

日本を離れる際、北欧の冬は非常に厳しく、肌を刺すような寒さであると覚悟をしていたのだが、確かに冷たく、気温は低いものの意外に心地よく、予想外の自然環境を適切に伝える言葉を捜しあぐね、とりあえず盛大に見送ってくれた職場の上司や同僚に北欧の冬の第一印象は「澄み透るような寒さ」であることを伝えた。

私たちを出迎えてくれたノルウェー・ハンドボール協会員の車両に分乗し、当選手権大会のインフォメーションがあるオスロプラザホテルに到着した。

翌日からの活動についてミーティングを終え、部屋の窓から白い街を一望し、眠りについたのは既に深夜をまわっていた。

12月3日、さぁ〜全員始動だ。初めて観戦する女子ハンドボール世界選手権大会。恰好なことに地元ノルウェー対デンマーク。大会メイン会場「オスロスペクトラ」は８０００人の観客で膨れ上り、その興奮と熱気にはさすがに圧倒されてしまうほどであった。

軽快な音楽に合わせてアップを繰り返す両国選手たち。いよいよ試合開始。観客のボルテージは上りっぱなしだ。自国チームの得点やファインプレーに対し８０００人の観客が一斉に立ち上がり歓声を挙げる。また、音楽による演出が一層効果的だった。

この雰囲気についていけない自分自身に歯がゆさといらだちを覚え、日本人が持ち備えていない豊かな国民性に憧れを持ったのも事実だった。観客がゲームを知り尽くしている。選手のプレーや審判のジャッジに敏感に反応し、身を乗り出して歓声をあげる観客たち。応援そのものの質はともあれ、このような雰囲気の中でゲームをすることに馴れた選手たちを満足させるだけの演出が果たして出来るのか、大きな課題を背負ったような気がした。

「澄み透るような寒さ」で静まり返った戸外から一転し、ガンガン来る歓声の熱気で包まれたスタジアム。この雰囲気を味わっただけでも、16時間もかけてやってきた甲斐があった。この機会を得たことに感謝した。

世界選手権大会を観戦し、この独特な雰囲気を日本でも再現したい。日本でこの大会を開催したい。我々の思いは97年男子ハンドボール世界選手権大会日本（熊本）開催へと膨らんだ。

ＩＨＦ役員との会食や懇談を皮切りに、ホテル内に熊本コーナーを設け、各国の協会役員・スタッフ・審判・プレス関係者等を招き、熊本をアピールした。私個人としては、自由に出入り可能なＩＤカードを首から下げ、あつかましいながらも随所に首を突っ込んだ。「言葉」という最大の障壁はあったが、笑顔で軽く言葉を交わしたり、一緒に写真を撮ったりしていくなかで、我々の目的である「１９９７世界選手権大会の日本開催に向け、皆さんの協力を得るために日本からやって来た」ことを伝え続けた。



オスロ最終日、スタッフの一人に日本から持っていった「お守りの袋」を渡し、彼の協力に深く感謝し、堅く握手を交わし、私のロビー外交は無事終った。私たち15名が行ったこの招致活動は、招致活動全体からみるとほんの通過点の出来事かも知れないが、スポーツを通した国際交流に言葉や文化の違いはなく、ただ共通のルールとスポーツマンシップがあれば十分だということを実感した。

終わりになりますが、（今年）9月、オランダでのＩＨＦ総会で97年世界選手権大会開催国が決定するわけだが、その時までオスロで味わった世界選手権大会の感動と夢を育み続けたい。

第18回日本リーグ総括

日新製鋼初制覇、オムロンは連覇を達成!

日本リーグ広報担当
薬袋　房江

第18回日本リーグは7月13日(火)に前期を終え、9月27日(月)に後期が開幕した。

前期の男子は湧永製薬が全勝でUターンし、2位の中村荷役以下、日新製鋼、大崎電気、三陽商会、本田技研の6位まで勝ち点2差でひしめきあう混戦となり、プレーオフ進出をめぐる各チームの熱戦が期待された。

女子についても互いに星をつぶし合う形で、日立栃木、北国銀行、オムロンが4勝1敗で並んで折り返し、優勝レースの行方から目が離せなくなっていた。

11月28日(日)、プレーオフ決勝を終え、全日程を消化した今期リーグを顧みてみよう。

男子一部

全勝街道をひた走っていた湧永製薬の連勝を8でストップさせたのは前期1勝6敗と不振だった大同特殊鋼。後期に入って盧、林の韓国コンビの活躍などによって急上昇し、後期は6勝1分。プレーオフ進出に期待がかかったが、再終戦を引き分けで終え、チケットを手にできなかった(リーグ4位で終了)。後期の躍進を見ると何とも残念である。

前期1位の湧永製薬はあいかわらずベテラン勢の玉村、監督兼任のGK井藤ががんばりを見せるものの、後期になっては連勝にストップをかけられ、本田技研との試合では史上3人目の500得点をマークした玉村選手の記録を白星で飾ることができなかった。最終日の日新製鋼戦も先制はするものの勝利を導けずにリーグを11勝3敗(1位)で終える。

前期2位につけて好位置からスタートした中村荷役は、後期開幕戦で湧永製薬に黒星を喫し、一歩後退。この間、日新製鋼が勝ち星を伸ばして浮上。この注目を集めた両者の争いは日新製鋼GK宇田川の果敢なキープと堀田の活躍で気迫あふれる攻守で勝利を呼び、その後も星を伸ばしてプレーオフ出場のチケットを手にする(9勝3敗2分・リーグ2位)。

残る一枚のチケットをめぐり最後までもつれた今回。毎週のように順位が入れ替わり、最後の最後まで予断を許さなかった。中村荷役、本田技研、大崎電気、大同特殊鋼の4チームがチャンスを残して最終週の2連戦に臨んだ。本田技研はキャプテン山村がケガのために一時戦列を離れていたが、復帰後は大暴れ。GK橋本の美守から速攻といった本来のパターンで勝ち星を得て最終日にプレーオフのチケットを手にした(7勝5敗2分・リーグ3位)。

前期に躍進した中村荷役も得点王となった呉の活躍が光るが、惜しいところで星を落とし、三強には入れずに終る(7勝6敗1分・リーグ5位)。

一時は3位に位置した大崎電気も、三陽商会に苦杯をなめて後退。首藤の活躍と、持ち前の好フットワークで本田技研戦は快勝するが、今一つ調子が続かず最終的には8勝8敗の6位で終了する。

三陽商会はフリースロー、ポストアシストの技が冴える大型新人

個人表彰リスト

1　部	男　子	女　子
最高殊勲選手賞	宇田川竜也(日新製鋼)	川島ゆう子(オムロン)
得点王	玉村　健次(湧永製薬) 95点 呉　龍基(中村荷役)	新井　紀子(日立栃木) 71点
フィールド得点賞	呉　龍基(中村荷役) 95点	白　永蘭(北国銀行) 58点 新井　紀子(日立栃木)
ペナルティ得点賞	浜川　康一(三陽商会) 38点	小松　晃子(シャトレーゼ) 23点
シュート率賞	河原　隆雅(湧永製薬)0.593	谷本　泉(北国銀行)0.721
ペナルティ阻止賞	宇田川竜也(日新製鋼) 20本	鷲見　美応(ジャスコ) 16本
最優秀新人賞	岩本　真典(三陽商会)	吉村　智子(ジャスコ) 山川　由加(ブラザー工業)
最優秀監督賞	西山　清(日新製鋼)	西窪　勝広(オムロン)
ベストプレーヤー賞	GK橋本　行弘(本田技研) FP玉村　健次(湧永製薬) FP木村　信弥(日新製鋼) FP林　珍錫(大同特殊鋼) FP呉　龍基(中村荷役) FP首藤　信一(大崎電気) FP岩本　真典(三陽商会)	川島ゆう子(オムロン) 比嘉　晴美(オムロン) 白　永蘭(北国銀行) 新井　紀子(日立栃木) 小松　晃子(シャトレーゼ) 土師　基子(ジャスコ) 西　朋子(ブラザー工業)
2　部	男　子	女　子
最多得点賞	加地　哲也(大阪ガス)102点	田中美音子(大和銀行) 96点
フィールド得点賞	堀内　勝美(本田熊本) 96点	白　仁淑(大崎電気) 70点
ペナルティ得点賞	大沢　清孝(豊田織機) 42点	田中美音子(大和銀行) 28点
シュート率賞	大中　明徳(本田熊本) 0.750	杉原ゆかり(大崎電気)0.707
敢闘賞	神田　浩臣(三景) 森口　太一(竹芝精巧) 笠　哲也(日本電装) 久本　直明(日本電装)	久保美枝子(JUKI) 林　すみえ(ソニー国分) 松尾　英美(ソニー国分)

第18回日本ハンドボールリーグ成績表

93/11/21 終了現在

1部男子

	湧永	日新	本田	大同	大崎	中村	三陽	トヨタ車	試合数	勝	引分	負	勝点	得点計	失点計	差	順位	(参考) 途中順位
湧永製薬	*** ***	○31 ●23	○26 ●20	○30 ●22	○26 ○24	○23 ○26	○25 ○24	○40 ○36	14	11	0	3	22	376	323	53	1	1
日新製鋼	●28 ○25	*** ***	△19 △23	○29 ●17	○25 ○26	●22 ○25	○25 ○22	○37 ○28	14	9	2	3	20	351	314	37	2	2
本田技研	●22 ○22	△19 △23	*** ***	○25 ●20	●22 ●13	○25 ○27	●23 ○22	○28 ○24	14	7	2	5	16	315	290	25	3	3
大同特殊鋼	●17 ○29	●19 ○20	●18 ○23	*** ***	●19 ○21	●29 ○28	●20 △22	○39 ○34	14	7	1	6	15	338	309	29	4	4
大崎電気	●25 ●22	●18 ●25	○24 ○21	○21 ●20	*** ***	●16 ●19	○30 ●23	○27 ○37	14	6	0	8	12	328	305	23	6	6
中村荷役	●17 ●22	○25 ●20	●18 ●19	○32 ●16	○19 ○22	*** ***	△25 ○26	○33 ○34	14	7	1	6	15	328	318	10	5	4
三陽商会	●24 ●21	●21 ●19	○24 ●21	○21 △22	●23 ○25	△25 ●22	*** ***	○34 ○27	14	5	2	7	12	329	338	-9	7	6
トヨタ車体	●27 ●22	●26 ●25	●20 ●14	●18 ●16	●16 ●24	●18 ●13	●25 ●26	*** ***	14	0	0	14	0	290	458	-168	8	8

1部女子

	オムロン	北国	シャトレー	ジャスコ	日立	プラザー			試合数	勝	引分	負	勝点	得点	失点	差	順位	(参考) 途中順位
オムロン	*** ***	●21 ○22	○28 ○20	○37 ○26	○18 ○34	○34 ○23			10	9	0	1	18	263	216	47	1	1
北国銀行	○30 ●21	*** ***	○34 ○30	○32 ○34	●21 ○35	○37 ○30			10	8	0	2	16	304	251	53	2	2
シャトレーゼ	●18 ●15	●26 ●23	*** ***	●22 ○26	●16 ●25	○33 ●21			10	2	0	8	4	225	273	-48	5	5
ジャスコ	●26 ●17	●31 ●26	○24 ●24	*** ***	●29 △29	○34 ○31			10	3	1	6	7	271	299	-28	4	4
日立栃木	●17 ●21	○28 ●23	○30 ○33	○30 △29	*** ***	○34 △30			10	5	2	3	12	275	270	5	3	3
プラザー工業	●29 ●22	●25 ●26	●24 ○26	●33 ●30	●33 △30	*** ***			10	1	1	8	3	278	307	-29	6	6

2部男子

	トヨタ自	三景	電装	熊本	北陸	大阪	竹芝	豊田	試合数	勝	引分	負	勝点	得点	失点	差	順位	(参考) 途中順位
トヨタ自動車	*** ***	○29 ●22	●32 ●21	●26 ●21	○30 ●21	○28 ○26	○25 ●20	○27 ○24	14	7	0	7	14	352	377	-25	4	4
三　景	●22 ○25	*** ***	○28 ●27	●19 ●18	●22 ●17	●25 ○27	○30 ●24	●24 ○33	14	5	0	9	10	341	363	-22	5	5
日本電装	○35 ○29	●24 ○28	*** ***	●27 ○28	○45 ○32	○39 ○37	○44 ○45	○38 ○28	14	12	0	2	24	479	341	138	2	2
本田熊本	○28 ○29	○31 ○32	○35 ●20	*** ***	○28 ○25	○35 ○28	○35 ○28	○41 ○35	14	13	0	1	26	430	311	119	1	1
北陸電力	●25 ○35	○24 ○27	●24 ●23	●26 ●23	*** ***	○25 ●27	○29 ○23	○20 ○27	14	8	0	6	16	358	361	-3	3	3
大阪ガス	●24 ●24	○27 ●21	●25 ●16	●23 ●19	●23 ○30	*** ***	○33 ●22	○31 ○25	14	5	0	9	10	343	395	-52	6	5
竹芝精巧	●23 ○31	●26 ○26	●25 ●23	●28 ●17	●26 ●20	●26 ○28	*** ***	●25 ○31	14	4	0	10	8	355	412	-57	7	7
豊田織機	●26 ●21	○26 ●20	●25 ●17	●20 ●16	●19 ●23	●20 ●24	○29 ●25	*** ***	14	2	0	12	4	311	409	-98	8	8

2部女子

	大和	大崎	JUKI	ソニー	ムネカタ	ビクター			試合数	勝	引分	負	勝点	得点	失点	差	順位	(参考) 途中順位
大和銀行	*** ***	●28 ●25	○29 ○25	○25 ○19	○35 ○32	○41 ○29			10	8	0	2	16	288	195	93	2	2
大崎電気	○32 ○28	*** ***	○30 ○33	○37 ○40	○35 ○40	○50 ○41			10	10	0	0	20	366	180	186	1	1
JUKI	●22 ●20	●18 ●18	*** ***	●19 ○23	○32 ○28	○35 ○27			10	5	0	5	10	242	216	26	3	3
ソニー国分	●21 ●15	●23 ●17	○22 ●15	*** ***	○23 ●18	○37 ○28			10	4	0	6	8	219	241	-22	4	4
ムネカタ	●18 ●14	●10 ●18	●12 ●18	●20 ○30	*** ***	●16 ○17			10	2	0	8	4	173	275	-102	5	5
ビクター	●15 ●10	●10 ●13	●18 ●14	●13 ●15	○18 ●14	*** ***			10	1	0	9	2	140	321	-181	6	6

の長身・岩本を擁し、上位チームを脅かしたが、今一つ力を出し切れずシーズンを終了（5勝7敗2分・リーグ7位）。

一部ニューフェイスのトヨタ車体は岡部の活躍で善戦し、一時はリードをする場面も何度となくあったが、最後まで守りきれず一部の壁は厚く、片目を開けることができなかった（リーグ8位）。

最終的には11勝3敗の湧永製薬、9勝3敗2分の日新製鋼、7勝5敗2分の本田技研の3チームにプレーオフのチケットが渡された。

前回と同じ顔合わせの準決勝戦。リーグ戦では2試合とも引き分けであった両チームの出だしは守りが固く、互角の展開から前半終盤に連続ゴールで波に乗った日新製鋼が優勢に試合を運び、残り2分から2本のPTをシャットアウトしたGK宇田川が試合を締めて決勝進出を果たした。

決勝は準決勝の勢いを持ち込んだ日新製鋼が、リーグ1位の湧永製薬を相手に好スタートを切り、その後も快調に飛ばし前半で14－5と予想外の大差をつけて折り返す。日新製鋼の坂口は立ち上がり連続得点を奪ってから調子に乗り、湧永製薬はリーグ得点王の玉村を徹底マークされ得点が伸びない。前日から大暴れの活躍を見せた堀田、坂口、鉄壁な守りのGK宇田川とそれぞれが役割を果たし、攻守にチグハグな湧永製薬に快勝し、日本リーグ初制覇を成し遂げ、MVPはGK宇田川の頭上に輝いた。

女子一部

女子も前期は4勝1敗が3チームで並んで終了し、混戦が予想された。

前期1位の位置にいて台風の目となった日立栃木が、後期は北国

のスピードプレー、オムロンの多彩な攻撃の前にリーグ得点王となった新井の活躍があったものの勝利を手中におさめることができず、二強に割り入ることができずにリーグを終えた。前期は北国銀行のエース白にきついマークをつけて破ったが、後期はスタートから北国銀行の押しゲームとなり、白、金の韓国ペアの攻撃に加え、GK古澤の好守も重なってワンサイドゲームとなってしまった。オムロン戦でも散発的な加点のみで反撃するにいたらぬまま終ってしまった。しかし二部からの復帰ということを考えれば5勝3敗2分の3位は立派な成績と言えよう。

優勝の行方は二強の北国銀行、オムロンが最終の直接対戦で決まった。V2を狙うオムロンと初優勝に悲願を託す北国銀行の試合は、予想にたがわぬクロスゲームとなり、スタートダッシュは北国銀行のスピード攻撃だったが、前半だけで3本のPTを阻止したGK川島のファインプレーで逆転して前半を終了。後半は張のポストプレー、比嘉のPTなどで順調に加点していくオムロンに、北国銀行も懸命に差を縮めようと反撃。終盤には連続逆速攻で詰め寄るが、オムロンのリードは譲らずタイムアップ。

オムロンが1点差で2年連続8回目のリーグ優勝を達成した気迫のキーピングを見せたGK川島がMVPを獲得（オムロン9勝1敗、北国銀行8勝2敗）。

後期の巻き返しを期待されたジャスコは上位を脅かすまでに至らず3勝6敗1分の4位で終了した。安定した実力で上位を期待されたシャトレーゼも、小松がPT得点王になるものの元気が出ないまま2勝8敗の5位でリーグを終了。

一部復帰したブラザー工業は新人山川が活躍するなどで、得点力がありオムロン、ジャスコと対等の試合運びをするが、1点差に泣く試合が続き、結果は1勝8敗の6位となった。

男子二部

二部男子も熱戦が繰り広げられた。連勝を日本電装にストップをかけられた本田技研熊本が優勝を最終週に持ち越されながらも、自動昇格を果たして来シーズン一部に初登場する。

2位の日本電装は、一部7位の三陽商会に入れ替え戦で挑戦したが、退けられた。リーグ2年目の北陸電力が機動力をフル回転して3位に入る大健闘。また、セレクションマッチ2位の徳山曹達が1勝1敗ながら得失点差で二部7位の竹芝精巧を破り、来年度日本リーグ初加入を果たした。

女子二部

二部女子は大崎電気が貫禄の全勝優勝。続く大和銀行とともに8チーム制に移行する一部リーグ復帰を決めた。これによって3位のJUKIが一部6位のブラザー工業に挑戦。初日に1点差の逆転勝利をおさめたJUKIが翌日引き分けとなって入れ替え戦の成績はJUKIの1勝1分と勝ち越して10年ぶりに一部復帰となった。

なお今リーグ戦を最後に活動を停止する日本ビクターは最後の試合を飾れなかった。企業チームの厳しさとはいえ、残念である。寂しいの言葉だけでは足りない複雑なシーズン終了であった。

今シーズンは男子はもちろん、女子、二部とも各地で熱戦が繰り広げられ、毎週のように順位の入れ替わりがあった。来シーズンは女子も8チーム制となり、プレーオフが実施される。94年が93年以上のめまぐるしい順位争いであることを期待し、日本リーグが高水準の大会であることを望んで総括を結びたい。

第18回日本ハンドボールリーグ

●男子1部　3チームによるプレーオフへ

リーグ順位	チーム	成績	備考
1位	湧永製薬	（11勝3敗・勝点22）	プレーオフ決勝へ
2位	日新製鋼	（9勝3敗2分・勝点20）	プレーオフ準決勝へ
3位	本田技研	（7勝5敗2分・勝点16）	プレーオフ準決勝へ
4位	大同特殊鋼	（7勝6敗1分・勝点15）	（当該チーム間の得失点差）
5位	中村荷役	（7勝6敗1分・勝点15）	
6位	大崎電気	（6勝8敗・勝点12）	
7位	三陽商会	（5勝7敗2分・勝点12）	2部2位と入替戦で1部残留
8位	トヨタ車体	（0勝14敗・勝点 0）	2部へ降格

プレーオフ　11月27・28日　東京体育館

湧永製薬 ―― 決勝 11/28 14:30

日新製鋼・本田技研 ―― 準決勝 11/27 18:30 ―― 決勝

●女子1部　オムロン連覇！

リーグ順位	チーム	成績	備考
1位	オムロン	（9勝1敗・勝点18）	2年連続8回目の優勝
2位	北国銀行	（8勝2敗・勝点16）	
3位	日立栃木	（5勝3敗2分・勝点12）	
4位	ジャスコ	（3勝6敗1分・勝点 7）	
5位	シャトレーゼ	（2勝8敗・勝点 4）	
6位	ブラザー工業	（1勝8敗1分・勝点 3）	2部3位との入替戦で2部へ降格

女子1部は来年度から8チームに増枠

●男子2部　本田熊本が1部昇格！

リーグ順位	チーム	成績	備考
1位	本田技研熊本	（13勝 1敗・勝点26）	1部へ昇格
2位	日本電装	（12勝 2敗・勝点24）	1部7位と入替戦で2部残留
3位	北陸電力	（ 8勝 6敗・勝点16）	
4位	トヨタ自動車	（ 7勝 7敗・勝点14）	
5位	三景	（ 5勝 9敗・勝点10）	
6位	大阪ガス	（ 5勝 9敗・勝点10）	
7位	竹芝精巧	（ 4勝10敗・勝点 8）	2部入替戦にて敗退
8位	豊田自動織機	（ 2勝12敗・勝点 4）	2部入替戦で2部残留

●女子2部　大崎が復活

リーグ順位	チーム	成績	備考
1位	大崎電気	（10勝 0敗・勝点20）	1部へ昇格
2位	大和銀行	（ 8勝 2敗・勝点16）	1部へ昇格
3位	JUKI	（ 5勝 5敗・勝点10）	1部6位と入替戦で1部へ昇格
4位	ソニー国分	（ 4勝 6敗・勝点 8）	
5位	ムネカタ	（ 2勝 8敗・勝点 4）	
6位	日本ビクター	（ 1勝 9敗・勝点 2）	

女子2部は来年度から3チームで実施

第18回日本リーグ

プレーオフを制して

日新製鋼監督　西山　清



第18回日本リーグにおいて、我が日新製鋼ハンドボール部は初のリーグ優勝を成し遂げることができました。

過去の日本リーグの歴史を振り返ってみると、それは湧永製薬と大同特殊鋼との時代でした。その優勝回数をみてもわかるように、湧永製薬が7回、大同特殊鋼が8回（残り本田技研2回）と二強時代が昨年（92年）まで続いていました。そんな中、我が日新製鋼ハンドボール部も3年連続2位（第15～17回）になり、ようやくリーグ優勝候補の一つに上げられるまでになりました。しかし、3年連続2位は「万年2位」というレッテルがはられる結果にもなったのです。

こうした状況の中での日本リーグ初制覇は、我々ハンドボール部員にとっても、今まで日本リーグでの優勝を目標にして頑張って来られた諸先輩方、そして私たちハンドボール部を長年に亙りあたたかく見守って下さった方々への恩返しという意味からも、大変価値のある優勝だったと思います。

特に、昨年の10月11日にご逝去されました故岩田前ハンドボール部部長においては、我が日新製鋼ハンドボール部が日本リーグで優勝を果たすことに対して、その熱意は、書面にても、言葉にても言い表わすことのできないものがありました。その部長のあまりにも突然の死は、私たちハンドボール部員に深い悲しみと、これからの道筋への動揺を与えました。こうした状況を察してか、特に呉体育部後援会の方々が「弔い合戦だ」「優勝を果たし、よい供養をしてやろう」等の叱咤激励をして戴き、そしてリーグ戦真っ最中のチームを何とか励まそうといろいろと気を遣って戴きました。

なお、故岩田前ハンドボール部部長が亡くなる前の成績はというと、前期リーグを4勝2敗1分と第3位と出遅れ、後期リーグに入っても今一つ波に乗れない状態でした。こんな中でのこうした出来事は、チームを奮起させせました。その後の結果はご承知のとおりです。つまり、故前田前ハンドボール部部長は、チームに対し自ら死をもって叱咤激励したと思っています。

こうした中での日本リーグ初制覇は、私自身はもとより、選手一人ひとりの優勝に対する思いは、計り知れないものであったと思います。ただ、日本リーグ初優勝を故岩田前ハンドボール部部長と一緒に喜び合えなかったことが、やっぱり心残りです。

私自身、このリーグを振り返ってみますと、監督1年目ということと就任間もなくシーズン・インしたということもあって、歴代監督の貯金をつかっての優勝だったと思っています。

実際の練習内容も技術・体力トレーニングより選手として自分がもっている能力を引き出すよう心掛けました。

来シーズンに向けても、基本的に今シーズン重点においてやってきたメンタル面の強化を中心に、個々の技術・体力面のレベル・アップを計って行きたいと思っています。当然、日本リーグを含めた四冠（全日本実業団・国体・全日本総合）を狙いますが、それをあまり意識するのではなく、日新製鋼らしさがどういった試合の中でも堪えず出せるようなチーム作りをしたいと思っています。

第18回
日本リーグ
優勝報告

選手たちの底力を痛感

オムロン監督　西窪勝広

第18回日本リーグを2年連続8度目の優勝で終了することができ、嬉しく感じています。

5月から11月までの長丁場、その間に国体があり、選手たちのからだを休めることができないのが不安でした。

前期リーグ第1戦。前年、優勝を賭けて最終戦で戦った北国。ましてや地元に乗り込んでの対戦である。去年、オムロンのエース格として成長した田中が大会前にアクシデントにあい、前・後期を通じて出場があやぶまれる状態になり、コンビプレーに不安を持ちながら日本リーグに突入した状況でした。

やはり不安材料が多い分、選手たちの気持ちが一つになれず、30－21と大差で黒星スタートのリーグ開幕となった。第1戦を終ったばかりでしたが、優勝という大きな目標が音をたてて崩れていくのがはっきりわかりました。

第2戦、ブラザー戦。第1戦のショックは、やはり試合にはっきり表われ、オムロンの守ってからの速攻パターンが作れず、失点がかさみ、なかなかリズムがとれず乱打戦の末、初白星を上げる。



第3戦の日立戦、試合内容にリズム感がなく、常にリードを奪われ、後半開始10分で5点差と、誰もがオムロンの負けを感じとったことでしょう。しかし、選手たちの最後までの頑張りで、残り1分30秒で逆転し、1点差という僅差で2勝目を上げることができました。この試合で、選手たちにいままでの不安が吹き飛んだ様な気がしました。

第4戦シャトレーゼ、第5戦ジャスコ戦と、従来のオムロンパターンとなり、得点と失点のバランスがよくなり、負傷退場した田中のポジションを田村、西村両君がコンスタントにこなす様になり、コンビプレーの不安が解消されたことが大きな要因でした。また、新人の高橋もチームに慣れ、大きな戦力となったのも事実である。

前期の最終戦を終え、帰路の途中で私たちに入った報告が北国破れるの情報。大きく崩れた優勝という目標が、微かな炎として燃え上がるのを感じた。

9月から後期スタート。一度消えた夢が、自分たちの力で可能性にチャレンジできる喜びに、選手たちの目の色が日々変わって行くのが手に取る様に分かった。

第1戦、第2戦と順調に勝ち進み、第3戦のブラザー工業戦、今振り返ってもあの一戦を落していたらすべてが終ってしまったのだと痛感させられる試合でした。60分間、常に1点差を競う試合。残り20分、2点差のアヘッド。大変苦しい内容でしたが、選手たちの底力を痛感させられ、1点差で勝利することができました。

そして国体。体育館よりグラウンドでの試合とコンディションづくりに苦労しましたが、優勝という結果で、選手たちにも自信になったと思っております。

第4戦ジャスコ戦。基本的なミスが多く、最終戦を迎えるには不本意な内容だっただけに、基本練習の反復トレーニングの日々でした。

北国戦、私たちには勝つことだけしか許されない。引き分けでは当然優勝はできません。地元熊本での試合、プレッシャーを感じる苦痛の日もありました。しかし、選手たちの頑張り、応援のお蔭で優勝という報告ができました。6月の暗いスタートから、最後に素晴らしい感動の胴上げをしてもらい、大変嬉しく感じています。

社会環境の厳しい中、会社の理解等いろいろなバックアップのたまものと思っております。来季も選手と共に頑張り、観戦される皆さんに素晴らしいプレーが披露できるよう努力してまいります。

男子は15年ぶりに大同特殊鋼が優勝飾る

女子は北国銀行がシャトレーゼを下して2年ぶり2度目

第45回全日本総合選手権大会



40年以上の時を越えて、第45回全日本総合選手権大会が名古屋に戻ってきた。昨年暮れの12月16日から19日までの4日間、改装なった愛知県体育館と枇杷島スポーツセンターの2会場で開催された。毎回、学生陣の奮起が序盤戦の盛り上がりにつながるが、今回、大阪体育大学と東京女子体育大学のインカレ優勝勢が意地を見せて、それぞれ三陽商会とブラザー工業と戦った。しかし、両チーム共延長にまで持ち込んだが、結局は緒戦敗退となった。

それでも男子は、昨秋の東四国国体・成年男子二部で見事に地元優勝を果たした香川クラブを主体にした香川教員がトヨタ車体に圧勝したり、大会最多優勝（11回）を誇る湧永製薬が2回戦で中村荷役に敗退。女子は8年間の二部生活から久々一部入りしたものの、入れ替え戦で再び二部落ちの憂き目となったブラザー工業がショックをものともせず、日立栃木に快勝し、ベスト4入りするなど、見応えは十分にあった。

《男子》

創部以来、最低でも4位といった湧永製薬が2回戦で中村荷役に敗退した。今回はエースの中山をヒザの手術、若手のGK河野も足の負傷によるリタイヤで欠いている上に、ベテラン左腕エース・玉村が退院直後による悪コンディション、更に伸盛りのGK多田は登録ミスによる欠場と不運が重なっていた。相手はこのところ実力急上昇の中村荷役とあってはなすすべもなかった。

結局、四強に残ったのは、中村荷役、大同特殊鋼、本田技研、日新製鋼となった。

中村荷役対大同特殊鋼は、開始早々、西村の速攻などで中村荷役がリード。呉が11m付近、西村と朴が9mまで出る1・2・3ディフェンス。攻撃では朴と西村で1ポスト・2ポストの入れ替えを駆使して主導権を握って試合が進む。中村荷役の井上、大同特殊鋼の林（康）両GKの好守が続き、締まった展開。

20分過ぎ、大同特殊鋼は若手の松本によるポストシュートが決まったあと、中村荷役のパスミスなどもあり、6連取で一気に流れが変わる。中村荷役は頼みのエース呉、全日本も期待のサイドマン高木が不調で右側からの攻撃が点に結びつかず、防戦一方のまま21－17で大同特殊鋼が決勝に駒を進めた。

昨年3月の第17回日本リーグ・プレーオフ以来、準決勝での対戦が多い本田技研対日新製鋼。日新製鋼は今大会2連覇、第18回日本リーグで念願の初優勝を果たしたとあって今一番注目を集めているチーム。先取点こそ本田技研に奪われたが、堀田などでいきなり5連取。本田技研は徐々にスピード溢れる攻防で日新製鋼のディフェンスを崩し始める。再三、日新製鋼はGK宇田川とディフェンス陣とのやりとりがある。逆に本田技研はディフェンスが堅く、スキを与えない。後半になっても本田技研が押し気味で進む。10分過ぎ、日新製鋼は木村がカットインで反撃ののろしを上げ始める。続くポストシュートを決めた野中は得意のガッツポーズ。日新製鋼応援団もそれに呼応して大いに盛り上がる。日新製鋼の加速度的な6連取で一気に逆点。だが試合後の西山監督の談話にもあったように、いつもの勢いがなかった日新製鋼は終盤、山村の速攻などで再逆転され、3連覇の夢は砕け散った。

決勝は大同特殊鋼対本田技研の「東海決戦」。女子決勝が大接戦だっただけに場内の興奮が充満している中で試合開始。1点目を決めたのは大同特殊鋼。このところ7MTに登場することが多い期待の若手・松本が慎重に決める。対する本田技研も新人の満井が右サイドからのカットインで同点。

両チームGKの前に詰めて相手シューターにコースを誘い込むキーピングが冴え、一進一退の状態が続く。だが末岡の、本田技研のお株を奪うような速攻や、林（珍）

の相手ディフェンスを振り切ってゴールに持ち込むパワーなどで大同特殊鋼主導に移る。梅基退場の間に林（珍）がセンターに回り込んでのロングなどが効果的に決まり、本田技研が追う展開となり、12−10の大同特殊鋼リードで前半を終了。
　後半に入っても前半の状態がしばらく続くが、右サイドから弥吉がパスカットからの速攻で連続ポイントを上げ18分、17−17の同点に追いつく。大同特殊鋼はたまらず高村が登場し、ペースをつかもうとする。22分、18−18、ポストから高村、右45度から橋本の足下をねらった末岡のシュートが決まり、残り5分、20−18とする。本田技研は松原が決め、互いに激しい攻防が続く。本田技研はパスミスから相手ボールに移った後、最後の試みとしてオールコートマンツーに出るが、無情にもオフェンスファールでタイムアップの笛。大同特殊鋼が実に15年ぶり6回目の優勝となった。
　高村監督は本田技研の速攻を押えられたことと、日本リーグ前期の不調から基本に返って、個人の能力アップに励んで来たことが大きかったと述べた。

《女子》

　オムロン、シャトレーゼ、ブラザー工業、北国銀行の四強で昨年に続いて残ったのはオムロンだけという戦国時代。
　オムロン対シャトレーゼ。負傷者が多く、日本リーグでも不本意な成績に終ったシャトレーゼがリーグ優勝を果たしたオムロンにどのくらい食いついて行けるかが試合の焦点″いきなりサイドから合田の連続ポイントでシャトレーゼが飛び出す。オムロンも中山の速攻で1点を返す。その後、シャトレーゼのミスをついて連続速攻などで逆転。一進一退の攻防が続くが、18分過ぎ、日本リーグで大活躍した小松の7MTなどでシャトレーゼが主導権を握る。山岸も積極的にロングを放ち、決まってはジャンプしてのガッツポーズでムードを高める。オムロンはGKを王、川島と頻繁にチェンジしてみるが、流れはすっかりシャトレーゼに。後半もシャトレーゼの積極的な攻撃にオムロンディフェンスは7MTを取られるケースが多くなり、小松が慎重に決める。サイドからのシュートも効果的に決まり、嬉しい決勝進出となった。
　続くブラザー工業対北国銀行。ブラザー工業は二部陥落ショックを田中監督自ら進んで明るいムードを作って臨んだ地元の今大会。だがいきなり白、松田、谷本らのパワーとスピードで苦戦を強いられる。前半でダブルスコアの大差がつく。後半は期待のルーキー左腕・山川が積極的にポイントを上げるが、結局試合に影響がなく、北国銀行が余裕の勝利となった。田中監督は久々の一部リーグでの苦戦を冷静に判断し、強化ポイントをしっかり把握して目標を高い位置に置いている。日比野、西、進藤、甲斐らのベテラン勢に若手の山川、安田らがうまくかみ合えば、GK西住も高水準のものを持っているだけに一部復帰しての活躍も決して遠くはない。
　シャトレーゼ対北国銀行という新鮮味溢れる決勝戦。試合前、両チームの選手たちは明るく決意を述べてくれた。守って速攻を忠実に、自分たちの持味を出す、結果的に優勝したい、リーグの雪辱を果たす、最後の1秒ゴールに立っているまで絶対にあきらめない、優勝しかない等々。
　先取点は北国銀行。期待の若手センター上出が7MTを決める。シャトレーゼも今大会絶好調の山岸が左45度から得意のロングを決めて早くもガッツポーズ。直後に北国銀行白にマンツーマンを付ける。シャトレーゼは最初から李監督がメガホンを手に激しく檄を飛ばし、それに呼応するかのように小松、山岸の両フローターが積極的にゴールを狙う。対する北国銀行は荷川取コーチが主に指示を出し、穂積監督は比較的どっしり構えている。
　ゲームは前日の談話で、注意するという合田のサイドがあまり仕掛けられず、どちらかと言えば両45度から中の攻撃でポイントを着実に重ねていったシャトレーゼに対し、北国銀行はゴールポストに当たるなど、不運なシュートが多く15−7と実に8点もの差をつけてシャトレーゼがリードして前半を終了。とにかくハッパをかけて強気に出ろと指示した北国銀行はその効果がきいたのか、とたんに動きが良くなり、松下、松田らの速攻で反撃体勢に移る。逆にシャトレーゼはここまでガッツで頑張って来た小松の右足がかなり悪く、満足に動けない。更に合田、山岸の相次ぐ退場でついに19−19に追いつかれ、上出の左サイドで逆転。更に悪いことに、痛めていた右膝を金との接触で、生方がプレー不可能となり、満身創痍の窮地に立たされた。だがシャトレーゼも小野寺がパスフェイントからのシュートを決める。残り5分はまさに粘りの連続で一進一退。終了間際、北国銀行サヨナラシュートのチャンスも激しいディフェンスで守り切り、22−22で延長戦へと。
　後半終了間際からシャトレーゼ山岸にマンツーを付けて必死の攻防。場内の興奮もクライマックスに達している。延長後半はシャトレーゼ山岸、小松、北国銀行松田、白が気迫のシュートを決めて27−26。北国銀行の2年ぶり2度目の優勝となった。
　優勝した穂積監督は昨年、緒戦で筑波大学に敗退したので、とにかく緒戦突破を意識しながらも、前回優勝時には勢いを感じたが、今回は実力が安定しているので精神力がどれだけ身についているかを試し、今回の結果には大いに満足していると述べた。対するシャトレーゼの李監督は「経験は成功の母」という諺を例に出し、今のチーム状態で、しかも純潔チームでこれだけできたことに対して満足を感じ、次には新たな闘志、手応えを感じていると言う。
　今回は、ベンチ登録の問題で試合が一時中断するなどのマイナス面も残した。が、準決勝終了時にタレント伊集院光氏のテレビ番組収録で本田技研選手との7MT対決があったり、決勝戦には愛知県警音楽隊によるドリル演奏、愛知県小学生ハンドボール教室の2・3年生によるミニゲームのアトラクションで、激しい戦いの中に笑いや華麗さ、そして和やかな楽しみがありと好企画の連続でスタンドも大いに楽しむことができた。と同時に改めてハンドボールの素晴らしさと選手たちの爽やかさを感じ、会場を後にした。
　最後に今大会に御尽力していただいた関係各位に深く感謝致します。（機関誌編集　臼井鉄久）

平成5年度高松宮杯男子第36回・女子第29回全日本学生選手権大会

男子は大阪体育大学が2年連続5度目

女子は東京女子体育大学が10回目の優勝

平成5年度高松宮杯男子第36回・女子第29回全日本学生選手権大会は、11月9日（火）より14日（日）まで金沢市総合体育館において、男子24大学、女子16大学、合計40大学が参加し、予選トーナメント、準決勝リーグ、順位決定戦方式で開催され、男子は大阪体育大学が2年連続5回目、女子は東京女子体育大学が2年ぶり10回目の優勝をかざって本年度の学生チャンピオンの座についた。

男子は近年、地域格差がなくなって来ていると言われているが、今大会もその点が更に顕著になり、予選トーナメントから熱戦となり、僅差の試合が展開された。

B組でシードの日大が中部大に敗退した後、E組で西日本学生2位、第2シードの福岡大が順天大に敗れる波乱があった。G組ではダークホース視された国士大と中京大が戦い、前半リードされた中京大が、後半25分に池野（初芝）の得点で追いつき逆転勝ちした。この結果、準決勝リーグに東海勢が初めて3校進出となった。

準決勝リーグ第1ゾーンには大体大・中部大・名城大・早大、同第2ゾーンには順天大・筑波大・中京大・日体大が各々進出した。

準決勝リーグ初日は、第1シードの大体大、日体大が順当勝ちしたが、第2シードの早大に冴えがなくミスを多発して名城大に、また第3シードの筑波大が福岡大を破って勢いに乗る順天大の気迫あるプレーに各々敗れる波乱があった。



大体大④山口の好守

準決勝リーグ2日目の第1ゾーンでは、奮起した早大が中部大のスピードある攻撃を大原（北陸）の攻守と、五島（明星）の好判断でかわし振り切った。

第2ゾーンは勢いに乗る順天大が中京大に競り勝って、創部以来初のベスト4進出を決めた。今大会、今一つ波に乗れない筑波大と日体大戦は、日体大が富本（日体荏原）、茅場（笠間）などで前半に4点差として、誉田（久工付）を中心にして追い上げる筑波大を下した。

準決勝リーグ3日目は、第1ゾーンの大体大—早大が注目された。前半はセットで確実に加点した早大が4点リードしたが、後半に入ると大体大が早大の連続ミスを衝いて向井（八代学院）、片山（桂）などの確実さとスピードで逆転。石木（修道）の怪我による途中退場で攻撃の幅を欠いた早大を3点差で破って、順天大に大勝した日体大と共に優勝決定戦にコマを進めた。なお、大体大は予選トーナメントから優勝決定戦までのうち、この一戦が唯一前半をリードされ、3点差と苦戦した試合であった。

中部大と名城大の東海学連同士の対戦は、15年振りにベスト4進出をかける名城大に対して、中部大が立ち上がりから積極的に攻め、菊谷（小松明峰）等が確実に決め、坂田（中京）等で必死に追いかける名城大を何とか振り切り、1点差で勝った。この結果、3大学が各々1勝1敗となったが、得失点差で早大が3位決定戦に進出した。

第2ゾーンは、初のベスト4進出を決めた順天大と日体大が対戦したが、パワフルな攻撃で日体大が圧勝した。準決勝リーグで今一つ波に乗れなかった筑波大は、中京大戦で藤林（東宇治）などがコンスタントに得点し、関東学生リーグの優勝の面目を保った。

3位決定戦は、順天大が斎藤崇（花巻北）をはじめ気迫あるプレーで、大体大と互角に渡り合った早大を、石木の穴が埋め切れないとは言え逆転で、創部以来初の3位を獲得した勝利が光った。

優勝決定戦は、堅実でスピードの大体大とパワーの日体大と特色ある東西第1シード同士の対戦となった。

日体大が森山（熊本市商）の得点で先行し、それを大体大が追う形で前半19分を経過したが、日体大が17分過ぎから27分までミスなどで無得点の間に、大体大が19分に上野（育英）、21分に柴田（岡崎城西）、22分に片山と連続得点するなどして逆転、3点差で前半を終了。後半も9分まではそのままの展開であったが、その後はスピードと鋭い切れ込みで日体大の高い1・2・3ディフェンスを走り崩した大体大が、着々と加点すると共に、9分から20分まで日体大を無得点に抑えたディフェンスの頑張りもあって、26対17という大差で優勝を勝ち取った。昨年のようなずば抜けた選手はいかなかったが、全員が基本に忠実なプレーで、最後まで衰えないスピード

のハンドボールを展開して勝ち得た勝利と言える。

女子は、予選トーナメントでの波乱はなく、シード校が順当に勝ち上がった。

準決勝リーグ初日の第1ゾーンの大体大—筑波大は、後半の乱れを衝いた大体大が逆転勝ちした。第2ゾーンの日体大—福岡大は、立ち上がり富松（佐賀関）などの得点で福岡大がリードしたが、日体大が逆転。後半の福岡大の追い上げを抑えて勝った。

準決勝リーグ2日目は、上位シード校が順当勝ちしたが、その中で日女体大が前半の大差にめげず、後半に岩村（浦和実業）を中心に日体大を追い上げた試合が目についた。

準決勝リーグ3日目は、4試合共に1点を争う好ゲームが展開された。

第1ゾーンの東女体大—大体大戦は、飯田（名短大付）を欠く東女体大に、早い攻めから富着（読谷）が得点し大体大が先制したが、東女体大も山田（名短大付）、佐藤（聖和学園）で応酬。一進一退の展開から、後半は逆転、再逆転を三度繰り返した後、大体大の勝利かと思われた28分46秒に、梶田（名短大付）が決めて引き分けた。この結果、得失点差で東女体大が優勝決定戦へ進出。

第2ゾーンは、何（上海運技学院）を中心にセットで攻める日体大と、速い動きで攻める武女大と対照的な展開となったが、前半25分までは10—6と日体大がリードした。その後、武女大が3連続得点し1点差で終了。後半10分に14—11とリードした日体大が、25分まで無得点の間に武女大が追いつき、23分には逆転したものの、その後追加点が取れない間に、何の連続得点で日体大が1点差で辛うじて勝って優勝決定戦に進出した。

3位決定戦の武女大—大体大は、立ち上がりから速攻が冴えた武女大が3位となった。

優勝決定戦は、日体大が開始早々から宮本（福井商）の3連続得点などでリードしたものの、10分に山田で逆転した東女体大が10分間無得点に抑えている間に、7連続得点し、一気に引き離して前半を7点差で折り返した。後半に入り、リーグで見せた山田、梶田へのダブルマンツーマンディフェンスに切り替えた日体大の追い上げが始まり、17分には21—20と1点差まで詰め寄ったが、その直後に神津（群女短大付）のポストシュートから永山（文大杉並）、柏崎（栃木女子）と連続加点してダメを押し逃げ切った。エース不在で準決勝リーグでは一度は苦境に立ったが、全員で勝ち取った勝利と言える。

大会を振り返ってみると、冒頭でもふれたように男子は地方勢のレベルアップが目立ったが、逆に上位校の沈下も感じられた。女子はシード校のレベルアップが感じられた。

終わりに際して熱戦に水をさすようなことで申し訳ないが、学生の試合を愛するファンと言う人から「一生懸命試合をしている選手を応援する大学の応援席から、怪我で痛みをこらえて自力で退場しようとする相手選手に早く出えやとか、グットバイとか言った思いやりのない、心ない野次が再三聞かれたが、他の人も感じたと思うが非常に残念であった」との評が連盟に入ってきていることを付言しておきたい。最近、どのスポーツでも応援のあり方に問題ありとされている時であり、あえてこの評を記し、謙虚に受け止めて応援のマナー改善に努めたいと思っている。



東女体大⑭梶田のシュート

◎全日本学生選手権大会成績◎

■男子
- 優勝　大阪体育大学
- 2位　日本体育大学
- 3位　順天堂大学
- 4位　早稲田大学

■女子
- 優勝　東京女子体育大学
- 2位　日本体育大学
- 3位　武庫川女子大学
- 4位　大阪体育大学

◆優秀選手

《男子》
- GK　四方　篤（大体大）
- CP　向井　勝二（大体大）
- 片山　和泰（大体大）
- 富本　栄次（日体大）
- 松本　和也（日体大）
- 永山　強（順天大）
- 五島　宏隆（早　大）

《女子》
- GK　遠藤ひろみ（東女体大）
- CP　山田美智代（東女体大）
- 梶田　華恵（東女体大）
- 何　剣萍（日体大）
- 沖土井真子（日体大）
- 大林　まり（武庫女大）
- 田村　啓子（武庫女大）

★東四国国体優勝チーム手記特集

広島県選抜 成年男子一部

三重を下して4連覇達成

監督　井藤　英忠

広島選抜としての国体参加は今年で4年目を迎え、今年度の東四国国体は4連覇のかかった大会となった。広島選抜チームは日新製鋼より4名、湧永製薬より8名と監督1名の13名で編成された。共に日本リーグのチームで、第18回日本ハンドボールリーグ後期の真最中の国体開催ということで、国体へ向けてのチームづくりの時間が殆どなく、選抜チームとしてのコンビネーションなどに若干の不安を持ちながら本大会を迎えた。

10月24日（日）は総合開会式で徳島県へ行くこととなる。会場では懐かしい顔と再会したり、華やかなセレモニーで盛り上がっているが、それと裏腹に丸々一日がかりの開会式に選手の体調が心配だった。幸い次の日は試合がなく、夕食後少しフリーな時間もあり、気持ちの切り替えはうまくできた様に思える。

成年男子一部の試合は、10月25日（月）より始まった。国体では何度も経験しているが、試合時間が非常に早いのには毎年困らせられる。広島は25日は不戦勝だが、2、3回戦、準決勝と10時、決勝などは9時といった具合で、試合前の食事などを考えると非常に早い起床となった。

試合の方は、2回戦は大阪、3回戦は福島と無難に勝ち、準決勝は埼玉（大崎電気）との対戦となった。前半で7点差をつけることができ、24―19で勝利を収め、決勝は3年連続で三重（本田技研）との対戦となった。試合は一進一退を繰り返したが、前半3点リードして後半に入った。後半は若手三重のミスパスが目立ち、広島の速攻が決まり25―16で終了の笛が鳴った。広島チームは西山（日新）、玉村、酒巻（湧永）などがソウル代表などベテラン中心のメンバーで、疲労や怪我が心配だったが、各自気持ちも体調も上手くコントロールすることができ、国体4連覇を達成することができた。

大会期間中、試合会場では香川名物のさぬきうどんや、果物、お菓子などの国体ならではの心暖まるもてなしは、また一つ国体の素晴らしい思い出となった。また平成8年には地元広島での国体が決定しており、この経験を必ず生かし、成功させたいと思っている。

最後になりましたが、今大会前、期間中を通してお世話になった皆様に誌面を借りまして感謝申し上げ、国体の報告とさせていただきます。

香川県 成年男子二部

チーム一丸の待望の勝利

香川クラブ監督　西山　茂

東四国国体の開催が決まり、優勝経験のない香川県が、総合優勝を目指す際のキーポイントを強化スタッフと協議した結果、成年男子二部の優勝を絶対条件と決めた。そこで、3年前より強化対策として、優秀な選手の獲得をはじめ、強化選手が揃ったのが今年4月であった。その構成は教員・県職員・大学生の総勢11名であるが、常に練習できるのは7名の少数ながら、河合主将を中心とする攻守にバランスのとれたチームの結成となった。

まず目標として、前年優勝した全日本教職員大会に連覇するために計画を立てて、練習を始めた。大会1ケ月前に後藤選手が骨折し、不安をかかえたまま大会を迎えたが、持ち前のチームワークでカバーし、全日本教職員大会に優勝したことで自信も深まり、国体へのステップとなった。

さて、いよいよ待ちに待った国体本番。初戦の相手は、本年開催県の愛知選抜チームである。この試合に焦点を絞り、調整をして臨み、幸先よく先取点を取ったものの、地元の期待と緊張の余り、足が動かずリードを許したまま12―13で前半を終了。ハーフタイムにディフェンスのチェックを厳しくし、速攻につなげようと確認し合った。後半に入っても10分まで2点リードされていたが、持ち前の速攻が決まり、9連続得点で試合を決定づけ、33―26で初戦を突破した。

準々決勝の相手は東京（三景麹

町）で、ディフェンスがよくなり33－17で快勝。準決勝の千葉選抜も38－15で楽勝し、決勝進出を決めた。
決勝では3年間苦労し、蓄えた力をすべて発揮しようと選手を送り出した。相手は埼玉選抜で、試合開始から速攻、コンビプレー等により主導権を握り、41－23で優勝を飾ることができ、チーム一丸となっての待望の勝利であった。
今回の優勝も地元の方々の応援、職場の同輩の理解、そして大会関係者の尽力は言うまでもなく、ハンドボール関係できめ細かくご指導下さった方々による陰のご助力の賜物と深く感謝しています。

熊本県成年女子

心暖まる民泊での出会い

オムロン監督　西窪　勝広

東四国国体出場のために大分県別府港より出発。翌朝、高松港に着港し、その足で成年女子会場の綾上町へ移動する。
下船して走る町並みは国体旗が風になびき、国体ムード一色である。綾上町役場での民泊先の長田地区の方々の出迎え、そして子供たちがオムロン旗を手に歓迎してくれ、フェリーでの長時間の疲れを一瞬にして吹き飛ばしてくれました。
民泊先への移動、私も含めやはり不安であったが、各家庭での暖かい、やさしい雰囲気に一つ一つ不安が取り除かれていき、その夜の全体歓迎レセプションでも、町民挙げて国体を成功させるのだ、そして来町した選手たちによい想い出を作ってもらおうと太鼓、若者たちのエレキ演奏等、本当に私たちの不安を楽しく解消してくれました。
国体時の食事関係は、各民泊地区の集会場での食事で、地区のご婦人方が早朝から夜遅くまで、自分たちの家庭より私たちのコンディションづくりに細部まで気を遣っていただき、また朝食、夕食と一緒に会食され、選手たちとの会話にも大いに華が咲きました。
大会当日の開始式。子供たちの集団演技、ご婦人たちの踊り等、早朝から会場に足を運ばれた数多くの町民の見守る中での素晴らしい開始式でした。
日本リーグ開幕中での国体、そして体育館からグランドと、選手たちのコンディションづくりに苦労した大会でしたが、各試合、民泊地区の応援も日増しに激しくなり、私たちの長田地区でも手づくりの横断幕、個人名のプラカードをつくりシュートの入るたびに大いに盛り上がり、私たちも否応なしに日々気持ちの高まりを感じる次第でした。民泊先のご主人が応援団長を務めていただき、優勝の瞬間、応援の皆さんもいっしょに喜んでいただき、優勝できた安堵感と感謝の気持ちで一杯でした。
毎日の試合が終わり、帰宅する選手たちに、我が子同様、叱咤激励をいただき、試合に臨む雰囲気をつくっていただいたお蔭で優勝できたと痛感しております。
決勝戦終了後、長田地区の方々との祝賀会、讃岐うどんを選手の目前で打ってくださり、そして綾上町長から選手一人一人に表彰状を授与され、選手たちも感激しておりました。
最後の楽しい夜を過ごし、出発の朝、選手も各家庭の方々も何か口数が少なく、お互いに別れの寂しさが隠せない様子。そして出発。応援団長の最後のオムロンコールも涙声。選手の目にも涙があふれ、立ち去りがたい別れで、バスが見えなくなるまで手を振って下さった皆さんの姿が、今も目に焼き付いています。
数多くの想い出と優勝という感激を綾上町長田地区の皆さんのお蔭で味わうことができた東四国国体でした。豊かな自然と、やすらぎの町、綾上町を私たちは一生忘れません。

福岡県選抜少年男子

感動いまだ覚めやらず

監督　龍　昇

国民体育大会に対する希望と不安との複雑な気持ちで、10月22日、瀬戸大橋を渡る。写真で見るよりは、はるかに大きいのに非常に驚嘆し、日本工業のハイテクをまざまざと見せつけられた。10月24日の総合開会式における「若い力」で、福岡チームは感動と闘志とを昂らせ、試合を今か今かと待望しているかのようであった。
さて、1回戦はまったく資料のない未知なる北海道チームとの対戦。監督としては不安材料ばかりであったが、選手諸君は総合開会式及び開始式の余韻覚めやらなかったのかどうか、驚くほど調子がよく、ディフェンス面、ファーストブレイクの面は今までになかった程、歯車が最高に合った。結果は34－10で何とか初戦突破。ホッと胸を撫でおろすことができた。
2回戦は大阪との対戦。大阪のテクニックとスピードに不安を抱きながら試合が開始された。蓋を開

けてみると、昨日の絶好調がそのまま残っているかのように、開始早々、攻防共に思いもよらぬ出来栄え。むしろ不思議ささえ感じた。一人のフローターをピックアップ、マンツーされながらも何とはなしに点を重ね、結果は21－15となって、準決勝へと駒を進めた。対戦相手は地元香川。スピードと洗練された技能を有し、攻防共にバランスが取れ、特にファーストブレイクの疾い好チームであった。しかしながら、立ち上がりからシーソーゲームとなった。

話が脱線するが、ここで私が一番驚き、そして感動したことは、応援態勢で小・中学生が地元香川と福岡とに半々に分かれて、地元抜きに本当に心から盛大なる応援を頂いたことであった。まるで福岡で試合をしているような錯覚にとらわれた。唯々感謝あるのみ！

福岡は得点する選手が今までの試合とは入れ替わり、何とか点を重ねて、前半は10－7でリードして折り返した。後半になってもシーソーゲームは依然として続き、熱い雰囲気の中、勝敗は終盤へと持ち越された。ここに至って福岡にミスが続出して、香川の速攻、その他ノーマークシュートを幾本か許すはめになったが、これらの窮地を救ってくれたのがキーパーであった。結果は16－13で、まさか？ の実感で、思うだにしていなかった決勝進出。前の試合の観戦の結果、神奈川のスピード・パワーとシステムプレーには、ついて行けそうもなかったので、ゲーム開始早々10分ほどの半コートマンツーマンの作戦を取ったが、ディフェンスのチェックが全くだめで、瞬く間に3点連取されてしまった。仕方がなかったので、急遽ディフェンスラインを下げて一線型にし、特に縦ブロックと視野外からの鋭いカットインを警戒。その後、福岡も何とはなしに点が取れ、10－12の神奈川リードで折り返し。あまり点差がつかなかったので、少し安堵した。ハーフタイム時には、主なディフェンスチェックの確認と積極的な全員シュートを指示すると共に、一生に一度のこの最高のチャンスを硬くならないで、生かすことの精神面を再強調。選手たちは言われなくても燃えに燃えたようであった。後半は、いつの間にか点が取れ、25－22の点の取り合いであったけれども、全く夢のような優勝を獲得することが出来た。

大会終了後、幾日も経たが、感動いまだ覚めやらず、信じられない状態である。振り返ってみると、選手個々が勝つための執念に基づいた努力と研究を積み重ねた結果とは言え、周囲の皆様方の暖かいご指導、ご鞭撻、ご支援の賜物であると同時に、香川の皆様のすばらしいムード作りのお蔭であることは、決して忘れてはならないことである。

さらに本大会への長時間の準備と運営とに、日夜ご尽力された関係の皆様に深く感謝致します。本当にご苦労様でした。どうも有り難うございました。

愛知県選抜 少年女子

暖かい応援団に奮い立つ

監督　大橋　晃

第48回国民体育大会秋季大会が、「出会い、競い、そして未来へ」のスローガンのもと、徳島、香川両県で開催された。

国体は、選抜大会、総体では味わうことのできない地元の人々とのふれあいがあり、また県選手団が揃いのジャージを身にまとい、大きな単位で活動していることに、責任・希望が湧く大会である。

今大会は、スタッフそして県においても大きな意義があり、希望が持てる大会となった。と言うのも、今大会は来年度に控える「わかしゃち国体」に弾みをつける大会にしたいと共に、「国体3連覇への試み」、この二つの大きな目標があった。前者の希望と、後者の伝統である。

今国体では、前に述べたようなプレッシャーがあるので、スタッフはコンディション作りに神経を遣った。

試合をする中で感銘を受けたもの一つに、地元の幼稚園児、中学生の応援がある。特に決勝戦は、地元との対戦で四面楚歌と思われたが、試合が始まると愛知選抜の応援があり、他県の私たちに精一杯の応援をしてくれた。心から感謝したいと思います。

選手は、スタッフの心配をよそに毎試合厳しい試合ばかりでしたが、伸び伸びとケレン味なく戦ってくれました。結果は3年連続4回目の優勝を達成することができました。最後まで1分、1秒、そして1プレー1プレーをかみしめながら、走り、跳び、投げていたように見えました。

ハンドボール王国愛知の名に恥じない成果を出すことが出来ましたのも、選手の頑張りはもとより、地元の方々の暖かいご声援があったからだと思います。そしてまた、わかしゃち国体を目指す後輩たちには、旅路、旅館、会場での人との触れ合いを感じたこと、国体で学んだことを正確に伝えていこうと思います。ありがとうございました。

第7回男子アジア選手権大会報告

メディカル・トレーナーとして帯同して

浜脇病院理学診療科　藤井　健一

1．はじめに

第7回男子アジアハンドボール選手権大会がバーレーンの首都マナマにおいて93年9月24日から10月5日までの12日間、韓国、日本を始めとしてアジア12ケ国が参加して開催された。今回、メディカル・トレーナーとして帯同する機会を得たので、活動内容を報告する。

2．活動内容

今回は、本大会に帯同する前に、事前に選手個々の状態を細かく把握するために、2度の強化合宿に参加した。合宿期間中の活動としては、選手のメディカル・チェックを行い（表1）、既往疾患、現疾患の把握に努め、必要に応じてリハビリを施行した。また選手と生活を共にすることによってコミュニケーションを図り、精神面に対するフォローも行った。本大会（バーレーン）での活動としては、スポーツマッサージ、ストレッチングを始めとして腱板損傷の選手に対するクライオセラピー及びPNFトレーニング、カフエクササイズ等のリハビリテーション、腰椎分離症の選手に対するADL上の注意点をもりこんだ腰痛体操の指導、腰部椎間関節の痛みを訴えた選手に対するマニプレーションの施行、足関節内反捻挫、膝内側又副靱帯損傷、腱板損傷の選手に対するトレーニング前のテーピングの実施、またトレーニング後のアイシングの励行など多忙を極めた。

3．まとめ

今回、メディカルトレーナーとして最も強く感じたことは、昨年フランスカップに帯同した時よりも、選手が自分から進んで私の部屋を訪れ、スポーツマッサージやリハビリを受け、積極的に自己のコンディション調整を行うことが出来るようになってきたということです。トレーニング後のアイシング一つを例にとっても、選手が自ら率先して行うようになってきた。このように少しずつではあるが、選手一人一人が自分の身体は自分で守るという意識が芽生えてきていることは、大変喜ばしいことである。

今回、トレーナーとしてアジア選手権に帯同させていただいた貴重な経験と反省をもとに、さらにメディカルトレーナーとしての知識、技術面を向上させて選手たちの力に少しでもなれればよいと考えております。

稿を終えるにあたり、今回、合宿から本大会を含め3週間もの長期であったにもかかわらず、快く送り出して下さった浜脇病院の院長先生をはじめ職員の方々に深く感謝致します。

スポーツメディカルチェック　表1-1

NO＿＿＿＿＿＿

氏名		昭和　年　月　日 （男・女）年令（　　）才	スポーツ種目
所属クラブ	所属年数　　年	☎（　　）　―	
現住所〒	都府県　市郡　町	☎（　　）　―	
血液型（A，B，AB，O）	RH（＋，－）	アレルギー体質（有・無）	
視力（右　左　）	コンタクトレンズ使用（する・しない）	正常・色弱・色盲	
聴力（右　左　）	身長　cm	体重　kg	肺活量　cc
握力（右　kg，左　kg）	100 m走　秒	腕立伏せ　回	
きき手（右　左）	きき足（右　左）	得意なターン（右　左）	
常用している薬	体に合わない薬		
嫌いな食べ物	酒	タバコ	
得意とする他のスポーツ			

スポーツ歴

小学校	
中学校	
高校	
大学	
実業団	

今までにかかった病気・ケガ・手術の記録

	期間	病名	治療内容
病気			
ケガ			
手術			

表1-2

現病歴

年月日	現症	処置

診察の記録　　診察医の意見＿＿＿＿＿＿

19　年　月　日記載　病院名（　　）診察医（　　）				
自覚症状	①＿＿ ②＿＿ ③＿＿ ④＿＿			
血圧　～　mmHg	脈拍　／分	部位	右	左
顔面　耳　鼻　口腔	目　歯　扁桃腺	肩		
		肘		
頸部　リンパ節	甲状腺	手首		
胸部	腹部	手指		
神経	四肢	膝		
皮膚	全身弛緩性	下腿		
頸椎　胸椎	腰椎	足首		
HBS抗原（　　）	HBS抗体（　　）	足趾		

連載3

ハンドボールの指導法

指導委員会委員長　大西　武三

前回は「技術は習慣化するために、技術の習得に当たっては悪い癖をつけないように注意することが必要」であることを述べました。その例をジャンプシュートにとって説明を始めた訳ですが、今回はその続きから始めたい。

ジャンプシュートのジャンプ

ジャンプシュートのジャンプは、その跳ぶ方向から見ると、

1　高く跳ぶとき
2　前方遠くに跳ぶとき
3　斜め方向に跳ぶとき

がある。陸上競技でも高跳びと幅跳びがあり、同じ跳ぶといっても技術が少し違っている。ハンドボールのゲームを見ていても、その状況によってディフェンスやゴールキーパーを外すために高跳びのように高く跳んだり、幅跳びのように遠くに跳んだりする。ハンドボールではボールをもって跳び、しかも投げる動作と連動しなければならないので、初心者にとっては上手に跳ぶのは易しいことではない。

セットオフェンスでは、サイドやフローターは高く跳ぶことが要求される場面が多いが、プレイヤーにとっては遠くに跳ぶより「高く跳ぶ」のが苦手な者が多いようである。それだけに、練習が必要であるということである。

カンジェオン選手のジャンププレイ

ちょっと話は反れるが、皆さんもご存じの韓国のカンジェオン選手がいる。ソウルオリンピックの銀メダルの立役者の左利きのフローターである。現在はスイスのクラブチームで活躍しているということであるが、私は91年広島でのバルセロナオリンピック予選を思い出す。今でもそのプレイは強烈な印象を持って、未だ私の頭から離れずにいる。

写真はこの時のプレイである。技術、戦術、体力と、これほど見事に3拍子揃った選手は、まず見当たらない。世界選抜チームにも選ばれているが、アジアが生んだ選手として、国境を越えて手本としたいところである。写真のプレイはジャンプをしてパスをしたところであるが、同じようなジャンプ動作が、あるときはパスを出し、あるときはシュートをするという具合で、各国の選手はこのプレイに翻弄されたのであるが、日本もアジア代表を賭けた決勝で、結局はカンジェオンのアシストやシュートによって突破され、涙を飲まざるを得なかった。

写真1



カンジェオンの素晴らしさ

彼の素晴らしさは、何と言っても技術の完成度の高さ、技術を試合の中で使いこなす戦術力の高さ、また技術のバックボーンとなる運動能力の高さであろう。フェイント、パス、シュート等一つ一つが素晴らしいのである。この写真からも見られるように、シュート時の動作を見ても、その跳躍動作は利にかなった動作をしている。

シュート技術はハンドボールの技術の中でも重要度は最も高いものの一つであるが、成功させる要因の大部分は跳躍力やボールスピードといった体力運動能力的な面に依存しているように思われる。

ジャンプシュートで高く跳ぶには

高く跳ぶ人とそうでない人とでは、25cm以上も跳躍高に差があることを前回話した。その重心の変化とフォームを示してみたが、この図の観察から、二者の間の動作の違いを見つけることはたやすいことではない。そこで今回、具体的に高く跳ぶためにはどのようなことが必要なのかを述べてみたい。皆さんが指導者として現場に出られた時、是非選手の動作を観察してほしいと思います。

高く跳べる人の特徴

ここでは一般的に見られる跳べる人と跳べない人の差について述べてみたい。

昨年度、私の研究室で卒業論文を「ジャンプシュートにおける踏切動作に関する研究」の題目で書いた田中保志君と野村

由加里さんの結論をも参考にしながら話してみたい。

跳ぶとは

図2はよく跳べる者の重心の動きを示したものであるが、◎印で示した部分は踏み込み脚の着地の瞬間から離地までの重心の動きである。時間にして約0・22秒である。この間に水平の動きを上方への動きへと変換する訳である。上昇する角度が大きいと、高跳び型となり、低いと幅跳び型となる。

踏み込み脚は一種のバネ

踏み込み脚である左足を大きく踏み出し、踵から着地して速度を減速し、膝を曲げながら後半の上昇するための動きを準備している（図1番号8－11）。着地から跳び出しの動きは一種のバネの様な動きをするが、前半部分はバネが縮んでいる状況である。バネが強く、よく縮めばそれだけ跳べることになる。

沈み込み

助走の水平方向の動きを上方向に変えるのであるから、沈み込んで（重心を低くして）踏み込むことが大切である。図1－1～8までの助走の部分がそれに当たるが、踏み込み2歩前から重心を落して、踏み込み上方へ伸びるためのバネを作る準備をする。

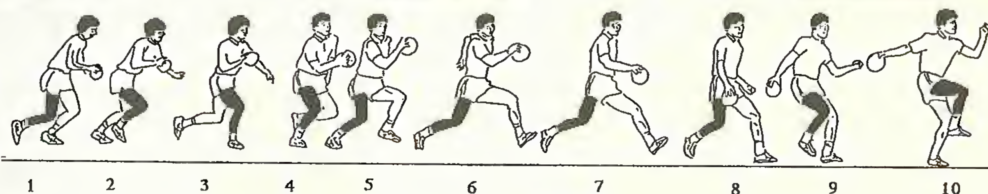


図1-1

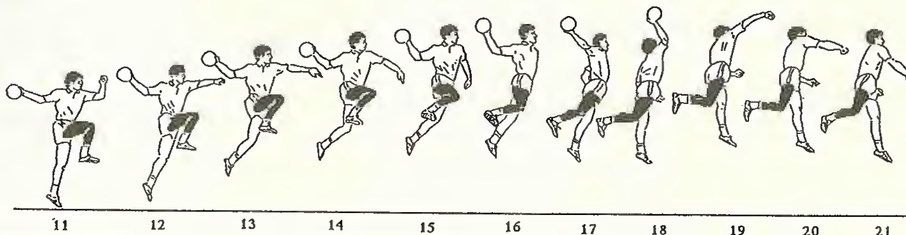
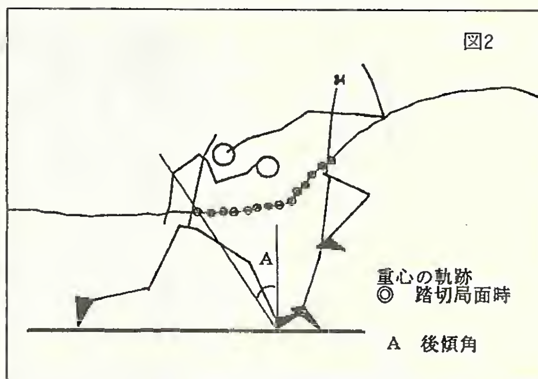


図1-2

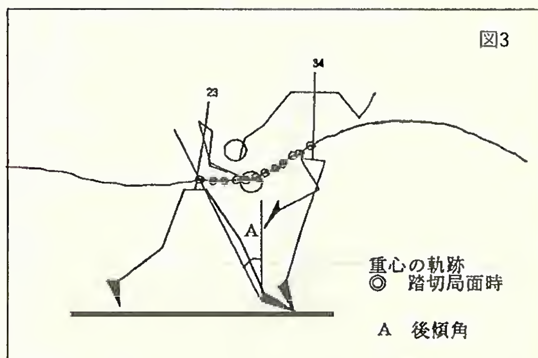


力強い踏み込み

よく跳べる人は、最後の2歩を沈み込んで跳躍動作に入る。沈み込むためには最後の2歩を通常の走りのリズムから一瞬スピードを落とし、力強く上から叩付けるように踏み込むために、見ていても力動感がある。

踵から踏込んでいる

踏込み時の左足の着地の瞬間を見てみると、沈み込みが出来ている人は、踏込み足が着地する瞬間、踵から入っている（図2）。これに対して、重心の高い人は、爪先あるいは足裏が地面と並行に入っている（図3）。男子は大体踵から踏込んでいるが、女子は爪先から踏込む者がかなりいる。これは、沈み込みが出来ていない証拠といえる。



後傾角

沈み込みの出来ている人は、後傾角がある（図2参照）。後傾角は身体の後方への傾きである。重心と踵を結ぶ線で表わしているが、沈み込みの出来ている者は後傾角が深い。

後傾角が深いことは、重心が後方に残っていることを示している。助走速度を減速することによって脚のバネが縮み、

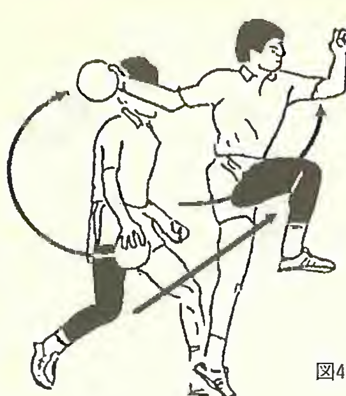
伸びようとする力をためることになる。そして重心を後方に残すことによって、バネの伸びる力を十分に生かして、上方への加速につなげることが出来る。

沈み込みが出来なければ

沈み込みが出来なければ、前方に大きく踏込むことが出来ないので、減速することが出来ず（バネを縮めることが出来ない）、踏切中間で重心が踏込み地点より前、または近くになってしまう。このことにより、ただでさえ弱いバネの伸びようとする力を、十分に上方への加速に生かせないことになる。

脚が伸びるタイミング

よく跳べる者は、脚と足首の伸びるタイミングがよい。膝が伸び、足首への負担がなくなろうとする時期に合わせて足首がタイミングよく伸び始め、脚が一直線になって空中へと跳び出していく。跳べない人は、膝が伸び切らない前に足首伸展が始まる。膝が地面に対して大きな力を出し、足首に力がかかっている時に足首が伸びようとするため、十分な力を地面に加えることが出来ない。


図4

振り込み動作

振り込み動作は、動作をより効果的に発揮するために行われるものである。主動作と同方向に行われる。反動動作とは運動の方向に行われるもので、投げる動作ではバックスイングがそれに当たる。振り込み動作は、大きく分けて脚自由脚（振り上げ脚）、利き手、非利き手、体幹の振り込み動作がある。

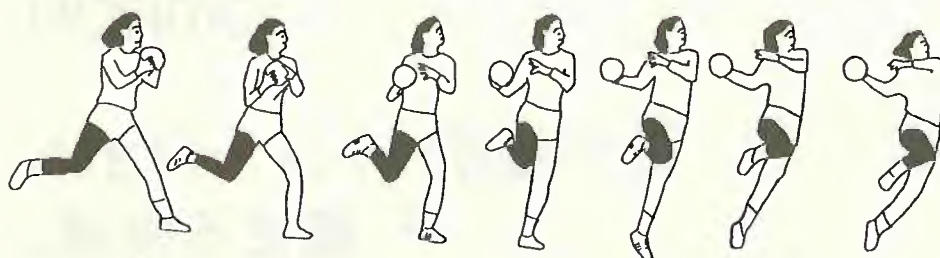
この中で、振り込み動作として最も有効と思われるのは、自由脚の振り込みである。

自由脚の振り込みが大きく速い

ジャンプする脚に対して、反対の踏み切りをする脚の動きを助ける役目をし、高さを跳ぶためには大切な役目である。膝は腰の線より上まで上がる。この脚の使い方の悪い人が多い。図4は自由脚の振り込みを表わしたものであるが、自由脚の振り込みに合わせて左右の手の振り込みが行われる。

自由脚の振り込みの弱い人

図5は自由脚の振り込みが不十分で、上方向への振り込みとしては弱いことを示している。たたみこむようにして振り込み、膝頭も十分に上がっていない。


図5

自由脚の振り込みの方向

自由脚の振り込みの方向は、その後に起こる投げの動きと密接に関係している。跳ぶためには前方に振り込むのが合理的であるが、腰を使って投げる場合は左腰を投げる方向に向ける必要がある。従って、自由脚の振り込みは斜め前方となる。

図1、図6、図5の者になるに従って腰をより開き、投げを優先して踏み込んでいる。

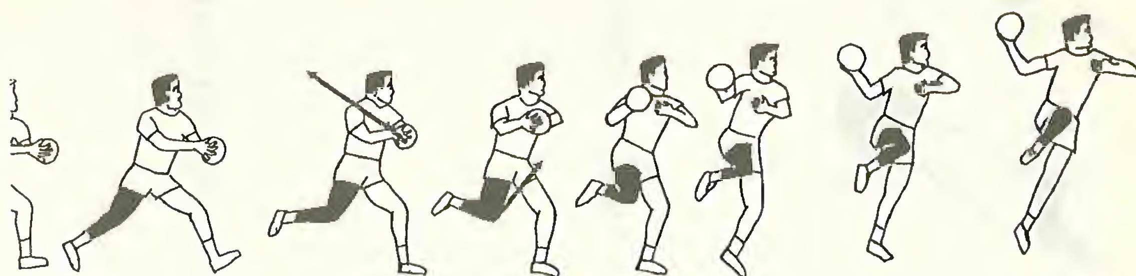
腰の開きは投げとか跳躍のどちらを優先するかで決まってくるが、体力形態的側面あるいはボールを握れるか否かも関係してくる。

ボールを握れない者は、腕の振り込み（バックスイング）を直線的に後方へ引かざるを得ない。ボールを握れない者にとっては図6のフォームが基本としてマスターすべきものであろう。

一連の動きから

高く跳べる者の動作を見てみると、身体の各部が跳ぶに必要な動きをタイミングよく大きな動きで行っていることである。踏み込み2歩前からの腰を落して力強く、しかもリズミカルな踏み込みと踏

図6



み切りがある。下半身の動きは、高跳びの動きの様である。また、バックスイングを跳躍の踏み切り動作としてタイミングよく上手に使っている。

指導上の注意

高く跳ぶための指導上の注意点の一つに、如何にして沈み込みの体勢を作らせるかにあるが、これは助走において踏み込む前の2歩を（右利きの人は右足）地面の上からたたき込むようにして行わせるとよい。上からたたき込むように踏み込むことによって右膝が曲がり、重心が下がる。最後の2歩をタ・ターンと強くリズムをつけて跳ぶと、うまく行くようである。

跳躍力を高めるための練習

ジャンプシュートの跳躍力を高めるためには、跳躍するための合理的なフォームを知る必要があるので、いくつかのポイントについてお話した訳です。どんな技術もそうですが、先ず正しい動作を身につけることが大切です。ゆっくりから徐々に速くリームを形作り、意識しないでも正しく動作できるまで繰り返す必要があります。その後に体力的な面を強化して力強く合理的な動きが出来るようにします。具体的な練習方法等は「ハンドボール指導教本」等を参考にしてください。

ハンドボール競技

特性からみた体力づくりの方向

スポーツ医科学委員会委員
全日本男子チームフィットネスコーチ　田中　守

1．ハンドボール競技に必要な体力とは？

ハンドボール競技は、60回前後の攻防戦の中でダッシュやフェイント、ジャンプ、シュート、身体接触などのより高く、強い無酸素的スピード、パワー（筋力×スピード）、筋力そして巧みさ（調整力）を、1試合通じて衰えることなく断続的に発揮し続ける（持久力）特性をもっています。その観点から基本的、応用的な体力トレーニングメニューを作成しました。

2．体力トレーニングメニュー

（1）無酸素的パワー（調整力を含めた）トレーニング

無酸素的パワーはハンドボール競技の中で最も頻繁に発揮され、最も重視される要素ですから、ハンドボール技術を加味したり、様々な動きの中でボディコントロールやボールをするトレーニングが必要となります。

①走パワートレーニング

従来より行われているフットワークが中心となります。動きの方向や姿勢、足の運び、ストップターンの仕方と方法、ボール使用の有無などを必要とされる技術に結びつけて実施すると良いでしょう。

なお、走スピードをつけるトレーニングとしては、やや下りの坂道をダッシュしたり、チューブを腰にまいて引っ張ってもらうことにより自ら出せる以上のスピードで走るトレーニング法があります。

②跳パワートレーニング

両足連続、片足連続、左右足交互連続ジャンプを上方、前方、側方、回転など方向や動作を工夫して実施するとよいでしょう。なおジャンプ時の腕の振り上げのタイミングや膝を高く上げることの指導を是非加えていただきたいもの

表1　筋力トレーニングのための身体使用部位と動作、種目

部　位	動作、他	ウェイトトレーニング種目	小、中、高校生用
上腕前部	腕　屈　曲	ワンハンドカール、ツーハンドカール	懸垂、斜懸垂、綱登り
上腕後部	腕　伸　展	ベンチプレス、フレンチプレス ベントアームプルオーバー	腕立て伏せ、腕立てジャンプ 片手でバットなどを振りおろす
前　腕	手首屈曲	リストカール	ゴムボール握り、手首や前腕 で砂詰めビンを振り回す
体幹前部	胸、腹部屈曲	シットアップ、ベンチプレス	腹筋運動、肩幅より広い腕立て
体幹後部	背部屈曲	ハイクリーン、バックエクステンション ベントオーバーサイドレイズ、デッドリフト	背筋運動 （利き手の引き上げも重視）
大腿前部	脚　伸　展	レッグプレス、レッグエクステンション スクワット	ヒンズースクワット ジャンピングスクワット
大腿後部	脚　屈　曲	レッグカール	うつ伏状態でかかと を引き上げるアイソメトリクス
下　腿	足首底屈	カーフレイズ	かかと上げ

表2　ウェイトトレーニング方法

トレーニング法	目　的	方　法	トレーニング時期
バルクアップ型	筋肉量の増大	10RM×3セット、セット間休息1～2分 最高10回程度挙げれる重量（最大筋力の約75%）で3セットできたら次回より重量を増やす。	鍛錬期 週3～4日
力型パワーアップ型	高い筋力発揮能力の向上	5RM×3セット、セット間休息3～5分 最高5回程度挙げれる重量（最大筋力の約85%）で3セットできたら次回より重量を増やす。	試合期前 週3～4日 （力型2～3日） （パワー型1～2日）
スピード型パワーアップ型	高い筋収縮スピード発揮能力の向上	最大筋力の50～60%で15～20回×3セット セット間休息3～5分	
筋力、筋パワー維持型	維持	スピード型パワーアップ型と同様	試合期　週1～2日

表3　持久性トレーニング方法

トレーニング法	目　的	方　法	トレーニング時期
持続法	有酸素的持久性の向上 （持続型）	心拍数160～170拍/分（OBLA相当）＊ で起伏のあるコースの10～60分走	鍛錬期 週3～4回
サーキット法	無酸素的パワーの持続能力向上	走パワー、跳パワー、筋パワーの数種目を各々最大スピードで10回程度、種目間をjogでつなぎ数セット	
レペティション法	有酸素的持久性の向上 （ややスピード型）	12分間走程度のスピードで5～10分走×3～5セット　セット間休息5～10分	試合期前 週3～4日 試合期 （インターバル法） 週1～2日
インターバル法	無酸素的パワーと無酸素的持久性の持続能力向上	40～100mダッシュ×10～20セット セット間休息30～60秒	

＊OBLA＝疲労物質である乳酸を過剰に蓄積させない上限強度

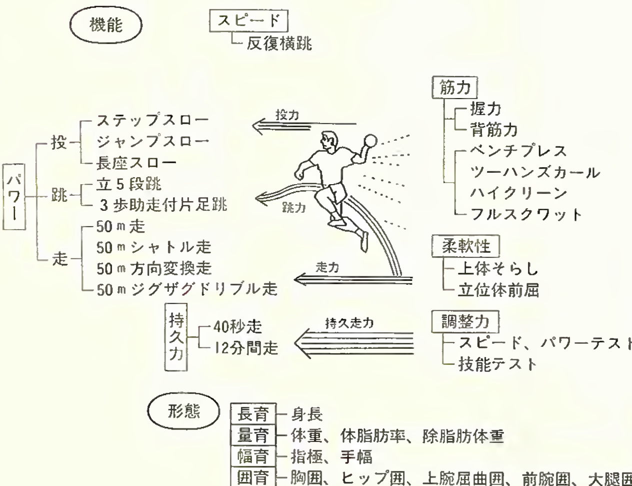


図1　ハンドボール選手のための体力測定項目

です。

③投パワートレーニング

遠投やスピード投練習によって、ある程度高めることができますが、遠投距離に影響する要因としての背筋力や腕の伸展パワー、握力などの向上を狙った補助トレーニングも必要です。

④力型パワートレーニング

走・跳・投のスピード型パワートレーニングに加えて、多少の身体想定しての力パワートレーニングも工夫し、実施されると良いでしょう。登り坂のダッシュ、タイヤ引きダッシュ、押し相撲、メディシンボール投げなどはその良い例です。

(2) 筋力トレーニング

高いパワー発揮にとても貴重な基礎トレーニングです。身長の伸びの止まった高校生後半以降は、バーベル等の重量負荷をかけたウエイトトレーニングで基礎的な筋力、筋パワーを高めて下さい。全身を表1の8つの部位に分け、さらに表2のようにトレーニング時期や目的に応じて方法を変えて実施して下さい。小・中・高校生は骨の発育を阻害しないためにバーベル等を使わずに自分の体重や小道具等を活用した方法（表2）をとって実施して下さい。

(3) 持久性トレーニング

持久性を高めるには表3の方法がありますが、技術練習の中でもかなり高めることができます（2～6人の速攻練習を短い休息で、10～20セット行うインターバル法）。また、1日に試合を何セットも行う方法はレペティション法としても有効ですが、持久力づくりにはやや不足がちになります。トレーニング時期や目標に応じて方法を変えて実施して下さい。なお、試合期ではインターバル法を用いますが、日本リーグなどの週1試合の定期開催では週1～2回、全日本総合選手権などの数日間の集中開催では約1週間前までに週3～4回実施し、試合前数日は実施しないで全体の練習量も落して下さい（疲労回復とグリコーゲンローティングのため）。

3．体力トレーニングを進める上での注意事項

(1) 発育段階に即した体力トレーニングを実施して下さい。小・中・高校では調整力を重視し、より基礎的、全面的な動きづくりを、高校から持久的、筋力的負荷を大きくし、より専門的な動き、体力づくりをして下さい。

(2) 1回の練習では前半に技術、調整力、パワーのトレーニング手段を、後半に筋力、持久力のトレーニング手段を設定して下さい。

(3) 疲労は怪我につながる元凶です。十分注意し、極端な疲労時には休養をとって下さい。

(4) 体力向上をみるためには体力評価は是非必要です。残念ながら性、年令に応じた評価完成されていませんが、測定項目については、スポーツ医科学委員会試案のものと図1を参考にすると良いでしょう。

各地の大会結果

東北

青森県社会人選手権

（12月4、5日／七戸町）

◎男子

▼1回戦

海自二空A	22－15	北里大学
AYC	25－23	七戸ユニオンB
野辺地クB	25－24	青森マスターズ
野辺地クC	24－22	海自二空B
青森クラブ	26－11	八戸工専
七戸ユニオンA	35－18	青南HANDS
野辺地クA	24－16	弘前大学

▼2回戦

青商クラブ	31－15	海自二空A
野辺地クB	43－16	AYC
青森クラブ	39－15	野辺地クC
七戸ユニオンA	30－20	野辺地クA

▼準決勝

青商クラブ	21－19	野辺地クB
七戸ユニオンA	22－21	青森クラブ

▼決勝

七戸ユニオンA 24（14－11、10－10）21 青商クラブ

◎女子

▼1回戦

あすなろク	25－9	北里大学

▼準決勝

青森中央ク	27－17	あすなろク
野辺地クA	22－16	MKC

▼決勝

青森中央クラブ 24（14－7、10－7）14 野辺地クラブ

東海

第45回全日本総合選手権

（12月16～19日／名古屋市）

◎男子

▼1回戦

湧永製薬	31－21	順天堂大学
中村荷役	31－21	日本電装
三陽商会	34－28	大阪体育大学
大同特殊鋼	33－12	京都教員ク
本田技研工業	25－17	パームヒルズ
香川教員	31－23	トヨタ車体
大崎電気	34－28	日本体育大学
日新製鋼	29－20	大同クラブ

▼2回戦

中村荷役	19－17	湧永製薬
大同特殊鋼	27－17	三陽商会
本田技研工業	22－16	香川教員
日新製鋼	31－22	大崎電気

▼準決勝

大同特殊鋼	21－17	中村荷役
本田技研工業	21－20	日新製鋼

▼決勝

大同特殊鋼 20（12－10、8－9）19 本田技研工業

◎女子

▼1回戦

大崎電気	27－20	武庫川女子大
ジャスコ	37－5	京都教育ク
シャトレーゼ	27－16	日本体育大学
日立栃木	32－17	DAIWACLUB
プラザー工業	36－35	東京女子体大
大和銀行	32－21	香川銀行ク

▼2回戦

オムロン	23－19	大崎電気
シャトレーゼ	20－16	ジャスコ
プラザー工業	33－29	日立栃木
北国銀行	38－18	大和銀行

▼準決勝

シャトレーゼ	29－24	オムロン
北国銀行	36－23	プラザー工業

▼決勝

北国銀行 27（7－15、15－7、3－1、2－3）26 シャトレーゼ

(財)日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第三三八号
昭和四十年六月七日 平成六年一月二十六日 印刷
第三種郵便物認可 平成六年二月一日 発行
東京都渋谷区神南一—一—一 編集兼
電話 代表 三四八一—二三六一
振替 東京 六—五八三四八番 発行人 中澤重夫
定価三百五十円
(年間購読料三千三百円)